

1 根室市の概況

(1) 地理・自然

根室市は、北海道の東端、北緯 43 度 9 分～43 度 39 分、東経 145 度 11 分～146 度 26 分に位置し、細長い台地状の根室半島と歯舞諸島からなり、面積は 512.71km²(うち歯舞諸島 99.94km²) で大部分を森林と牧草地が占め、海岸線に沿って切り立った断崖や砂浜が連続する変化に富んだ地形となっています。

【位置及び面積】

	位 置				広 ぼう		面 積
	東 端	西 端	南 端	北 端	東 西	南 北	
経 度	146° 26' 13"	145° 11' 44"	145° 29' 45"	146° 18' 37"	km 100.55	km 54.71	km ² 512.71
緯 度	43° 34' 12"	43° 15' 26"	43° 9' 31"	43° 39' 4"			

(注) 面積は平成 20 年 10 月 1 日現在の全国都道府県市区町村面積調べ。

面積は歯舞諸島の面積(99.94km²)を含む。

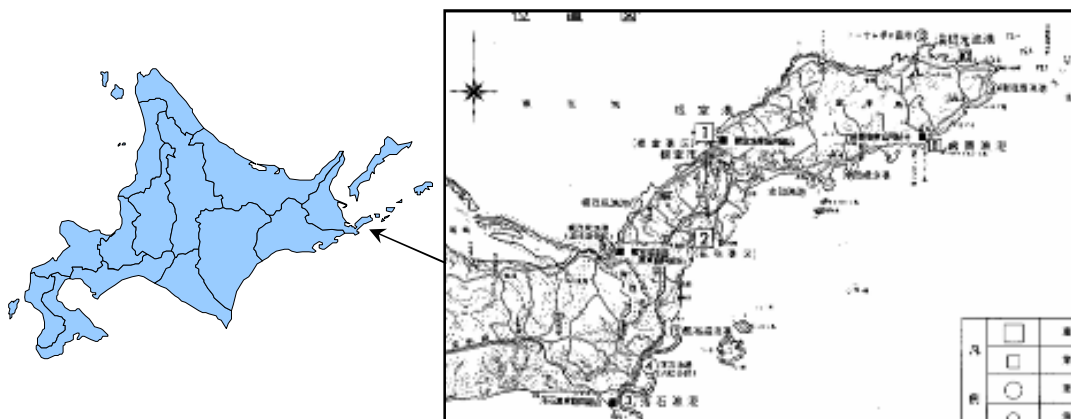
気象状況は、夏は千島海流の影響で太平洋側に海霧が多く比較的気温の低い日が続きますが、秋は一番好天に恵まれる季節です。しかし、11 月以降は北西の季節風が強く、厳寒期の 2 月にはオホーツク海側の沿岸域が流氷に覆われるなど、厳しい気候となっています。

【気象状況】

年 次	気 温 ()			平 均 湿 度 (%)	降 水 総 量 (mm)	降 雪 総 量 (cm)	平 均 風 速 (m)	有 感 地 震 (回)
	平均	最高 (極値)	最低 (極値)					
平成 15 年	5.5	26.6	-15.9	80	954.0	110	5.0	34
平成 16 年	7.3	31.4	-10.4	79	760.5	126	5.5	46
平成 17 年	6.5	29.3	-13.1	80	946.0	76	5.3	26
平成 18 年	6.6	29.3	-14.0	80	1,126.5	248	5.4	33
平成 19 年	6.7	32.7	-11.3	74	944.0	152	5.1	37
平成 20 年	6.5	26.0	-13.3	77	742.0	83	5.1	35

(資料: 気象統計情報)

豊かな自然環境は野鳥の宝庫としても知られ、風蓮湖や納沙布岬などでは多くの野鳥を観察することができます。また、沿岸にはハナサキガニ・ホッキ・ナガコンブ・エゾバフンウニ等、多種多様な水産生物が数多く生息しています。



(2) 人口及び世帯数の推移

根室市の総人口は、昭和 50 年(1975 年)の 45,817 人をピークとして減少傾向をたどり、平成 20 年 12 月末現在の住民基本台帳では 30,469 人となっています。同現在の世帯数は、13,129 世帯で、1 世帯当たり人員は 3 人を割り込んでおり、核家族化が著しく進んでおります。

【人口等の推移】

(単位:人、世帯)

区 分 年 次	人 口			世 帯 数
	男	女	合 計	
平成 15 年	15,674	16,994	32,668	13,208
平成 16 年	15,476	16,790	32,266	13,218
平成 17 年	15,215	16,556	31,771	13,167
平成 18 年	15,021	16,360	31,381	13,139
平成 19 年	14,777	16,104	30,881	13,084
平成 20 年	14,618	15,851	30,469	13,129

〔資料:各年 12 月末現在、住民基本台帳〕

(3) 産業別就業構造

根室市の産業別就業人口の構成をみると、第 1 次産業人口は減少傾向で推移し、第 3 次産業人口が占める割合が高くなってきています。

漁業は、昭和 52 年の漁業専管水域 200 海里の設定や昭和 61 年の通称三角水域の漁業閉鎖、平成 4 年のサケ・マス公海沖獲り禁止、さらには平成 13 年のマダラ漁獲割当量の 8 割削減など、相次ぐ国際漁業規制により、年々厳しい環境となり、漁業者をはじめ、水産加工業界などの関連企業の経営や雇用に大きな影響を及ぼしています。

また、沿岸漁業では、漁場範囲の縮小をはじめ、増加する輸入水産物・輸入水産加工品などによる魚価の低迷、後継者不足などが大きな課題となっています。

【産業別就業構造】

(単位:人、%)

区 分	年 次	平成 2 年		平成 7 年		平成 12 年		平成 17 年		
		総数	構成	総数	構成	総数	構成	総数	構成	
総	数	19,008	100.0	18,794	100.0	17,848	100.0	16,318	100.0	
第 1 次 産 業	漁 業	4,247	22.4	3,759	20.0	3,275	18.4	2,823	17.3	
	内	雇 用 者	1,188	6.3	993	5.3	761	4.3	657	4.0
		役 員	90	0.5	70	0.4	49	0.3	48	0.3
		雇人のある業主	312	1.6	301	1.6	288	1.6	262	1.6
		雇人のない業主	751	4.0	650	3.5	590	3.3	529	3.2
	家 族 従 事 者	1,906	10.0	1,745	9.3	1,587	8.9	1,327	8.1	
	農 林 業	633	3.3	502	2.7	434	2.4	401	2.5	
小 計	4,880	25.7	4,261	22.7	3,709	20.8	3,224	19.8		
第 2 次 産 業		4,442	23.4	4,743	25.2	4,567	25.6	4,081	25.0	
第 3 次 産 業		9,674	50.9	9,761	51.9	9,559	53.5	8,680	53.2	
分 類 不 能		12	-	29	0.1	13	0.1	333	2.0	

〔資料:国勢調査(5 年毎調査)〕

2 漁業協同組合の概況

(1) 市内漁業協同組合

根室市には、水協法に基づき次の4漁業協同組合が設立(昭和24年8月設立)しています。

根室漁業協同組合	歯舞漁業協同組合
落石漁業協同組合	根室湾中部漁業協同組合

(2) 漁協別組合員数・事業規模等調べ

根室市内の漁業協同組合員数は全体で1,386人(正組合員904人、準組合員482人)、職員数は同226人となっております。

また、事業の規模は、全体の販売・営業取扱高で約306億7千万円となっております。

[平成20年概況]

漁協名	根室漁業協同組合	歯舞漁業協同組合	落石漁業協同組合	根室湾中部漁業協同組合	合計	
組合員数	正組合員	138人	473人	177人	116人	904人
	準組合員	152人	297人	25人	8人	482人
	合計	290人	770人	202人	124人	1,386人
役員数	理事	9人	11人	8人	8人	36人
	監事	3人	3人	3人	3人	12人
職員数	102人	77人	33人	14人	226人	
出資金	1,591,300千円	3,074,650千円	1,424,985千円	792,355千円	6,883,290千円	
事業規模	貸付金残高	5,915,018千円	7,877,226千円	4,831,403千円	1,216,940千円	19,840,587千円
	貯金残高	9,283,119千円	17,687,654千円	7,729,431千円	3,372,851千円	38,073,055千円
	販売・営業取扱高	12,245,085千円	11,124,436千円	5,174,779千円	2,126,766千円	30,671,066千円
	製氷売上高	369,388千円	90,362千円	69,024千円	千円	528,774千円
	購買売上高	742,343千円	1,707,762千円	707,053千円	366,896千円	3,524,054千円

(資料:漁業協同組合業務報告書)

3 市場開設者・卸売業者

(1) 開設者

市場名	根室水産物 地方卸売市場	花咲水産物 地方卸売市場	歯舞水産物 地方卸売市場	落石水産物 地方卸売市場
開設年月日	昭和47年12月27日			
開設者	根室漁業協同組合			
開設の根拠	卸売市場法(昭和46年法律第35号)第55条の規定による			
卸売業者	根室漁協	根室漁協	歯舞漁協	落石漁協
施設所有者				

平成20年12月末現在〔資料:漁業協同組合業務報告書〕

(2) 卸売業者

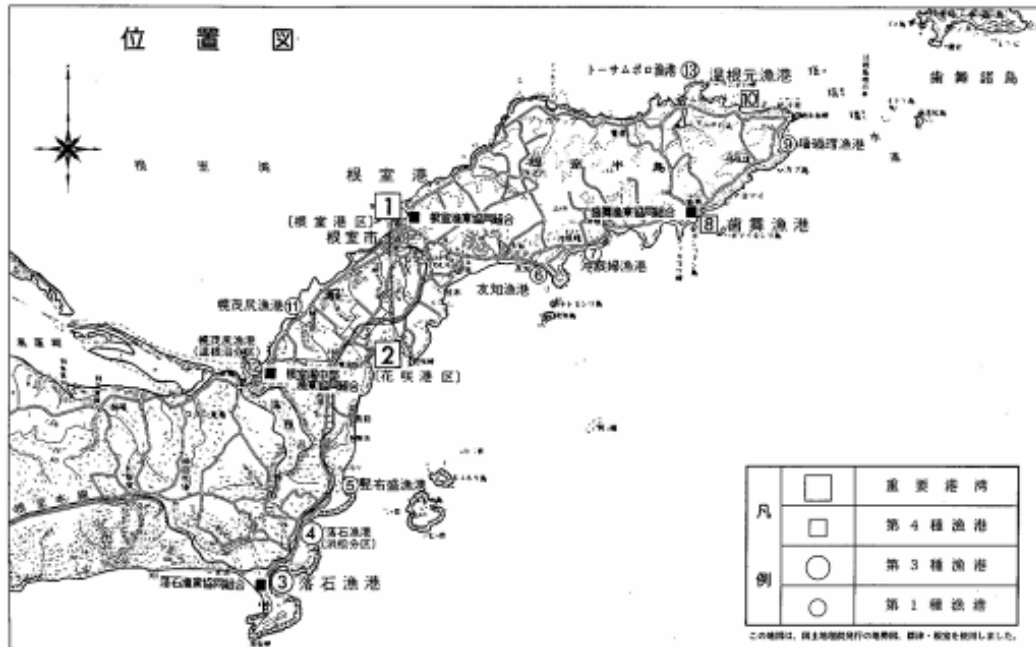
名称	根室漁業協同組合	歯舞漁業協同組合	落石漁業協同組合	
設立年次	昭和24年			
組織形態	漁業協同組合			
年間取扱高	12,245,085千円	10,444,883千円	5,174,779千円	
職員数	事務職員	48人	60人	22人
	現場職員	52人	17人	13人
買受人	加工・出荷	68人		
	小売業	26人		
	合計	94人		

平成20年12月末現在〔資料:漁業協同組合業務報告書〕

4 港湾・漁港の種別

根室市内には、半島沿いに 13 の「みなと」が点在し、水揚げを行っています。

港湾(漁港)名	位置図	種別	指定年月日
根室港(根室港区)	1	重要港湾	昭和53年 4月15日
根室港(花咲港区)	2		
落石漁港(落石地区)	3	第3種	昭和43年12月16日
落石漁港(浜松地区)	4	第3種	昭和63年 6月 6日
昆布盛漁港	5	第1種	昭和29年10月30日
友知漁港	6	第1種	昭和38年10月 5日
沖根婦漁港	7	第1種	昭和37年 2月17日
歯舞漁港	8	第4種	昭和26年 6月29日
瑤瑤瑠漁港	9	第1種	昭和28年12月28日
温根元漁港	10	第4種	昭和38年 2月14日
幌茂尻漁港(幌茂尻地区)	11	第1種	昭和52年 3月31日
幌茂尻漁港(温根沼地区)	12	第1種	昭和57年 5月 4日
トーサムボロ漁港	13	第1種	平成 8年 4月22日



5 漁船・漁業許可

(1) 動力漁船隻数

根室市の動力漁船(漁業法に基づく登録漁船)は、5トン未満の3級船が全体の約9割を占めています。

トン数	隻数
0 ~ 0.99	301
1 ~ 2.99	1,387
3 ~ 4.99	293
5 ~ 9.99	77
10 ~ 14.99	41
15 ~ 19.99	78
20 ~ 29.99	8
30 ~ 49.99	2
50 ~ 99.99	1
100 ~ 199.99	16
200 以上	2
合計	2,206

平成20年12月末現在〔資料:根室支庁水産課調〕

平成18年より漁協別隻数は公表しておりません。

(2) 漁業許可・免許等の現状

根室内に4漁業協同組合とも、それぞれ大臣又は知事の許可・承認漁業、海区承認漁業、免許漁業を営んでいます。特に、歯舞漁協が共同漁業第1種の採藻漁業、湾中部漁協が共同漁業第1種の採貝漁業が目立って多いのが特徴です。

許可(承認)漁業

(単位:隻)

区分	漁業種類	漁協別隻数				
		根室	歯舞	落石	湾中	計
大臣許可	近海かつお・まぐろ漁業	1	-	-	-	1
	中型さけ・ます流し網	6	-	1	-	7
	さんま漁業	19	22	10	2	53
大臣承認	太平洋底刺網等漁業	2	-	-	-	2
知事許可	えびかご漁業	1	-	2	-	3
	けがにかご漁業	3	3	3	1	10
	はなさきがにかご漁業	7	7	6	1	21
	すけとうだら固定式刺し網漁業 (10トン以上)	1	15	1	-	17
	小型さけます流し網漁業	30トン未満	5	4	2	2
14トン未満		14	18	13	-	45

(次頁へ続く)

(単位:隻)

区 分	漁 業 種 類	漁協別隻数					
		根室	歯舞	落石	湾中	計	
知 事 許 可	小型さけ・ますはえなわ漁業	2	-	-	-	2	
	秋さけはえなわ漁業	5	5	3	1	14	
	底はえなわ漁業	50トン以上	5	-	1	-	6
		50トン未満	5	6	1	2	14
	さんま漁業 (えりも以東海域)	流し網漁業	34	37	60	17	148
		棒受網漁業	1	3	3	2	9
	さんま棒受網漁業(オホーツク)	20	20	13	4	57	
	いかつり漁業(道沖合海域)	16	18	10	5	49	
	すけとうだら固定式刺網漁業 (10トン未満)	17	8	9	8	42	
	たこ 漁業	からつりなわ	5	3	13	-	21
		かご	22	40	66	14	142
		空釣り縄・北方四島周辺水域	2	2	4	-	8
	うに潜水器漁業	3	6	14	-	23	
	機船船びき網漁業(ちか)	16	15	9	-	40	
	あいなめかご漁業	11	18	-	-	29	
	つぶかご漁業	2	2	-	-	4	
	ほたてがいかた網漁業	12	7	-	13	32	
	ほっきがいえぞばかがいかた網漁業	4	4	8	16	32	
	うにけた網漁業	5	1	-	14	20	
	ほやけた網漁業	3	2	-	2	7	
なまこけた網漁業	3	-	-	13	16		
知 事 承 認	貝殻島周辺海域こんぶ漁業	14	229	6	-	249	

平成20年12月末現在〔資料:根室支庁水産課〕

海区漁業調整委員会承認漁業

(単位:隻)

区 分	漁 業 種 類	漁協別隻数					
		根室	歯舞	落石	湾中	計	
海 区 承 認	かじき等 流し網漁業	北海道連合海区	10	11	6	2	29
		岩手県海区	2	-	-	2	4
		宮城県海区	1	-	-	-	1

平成20年12月末現在〔資料:根室支庁水産課〕

漁業権(免許)漁業

(ア) 共同漁業権漁業

行使数 (単位:統)

区 分	漁 業 種 類		漁協別隻数				
			根室	歯舞	落石	湾中	計
共同漁業	第1種	採藻漁業	52	697	146	-	895
		採貝漁業	16	16	31	752	815
		その他	67	244	59	70	440
	第2種	刺網漁業	154	375	127	137	793
		小定置	21	19	19	4	63
		その他	87	53	17	79	236
	第3種共同漁業		3	1	-	-	4
第5種共同漁業		-	-	-	26	26	

平成20年12月末現在 (資料:漁業協同組合業務報告書)

(イ) 区画漁業権漁業

免許件数 (単位:件)

区 分	漁 業 種 類	漁協別				
		根室	歯舞	落石	湾中	計
区画漁業	うに養殖	1	-	-	-	1

平成20年12月末現在 (資料:漁業協同組合業務報告書)

(ウ) 定置漁業権漁業

免許件数 (単位:件)

区 分	漁 業 種 類	漁協別				
		根室	歯舞	落石	湾中	計
定置漁業	さけ定置網漁業	13	15	13	11	52

平成20年12月末現在 (資料:漁業協同組合業務報告書)



秋さけ定置網漁業

6

漁業生産

(1) 魚種別生産高

根室市の魚種別生産高は、数量でさんまが全体の5割強を占め、金額では上から、「さけ、さんま、たら」の順となっています。

(単位:トン、千円)

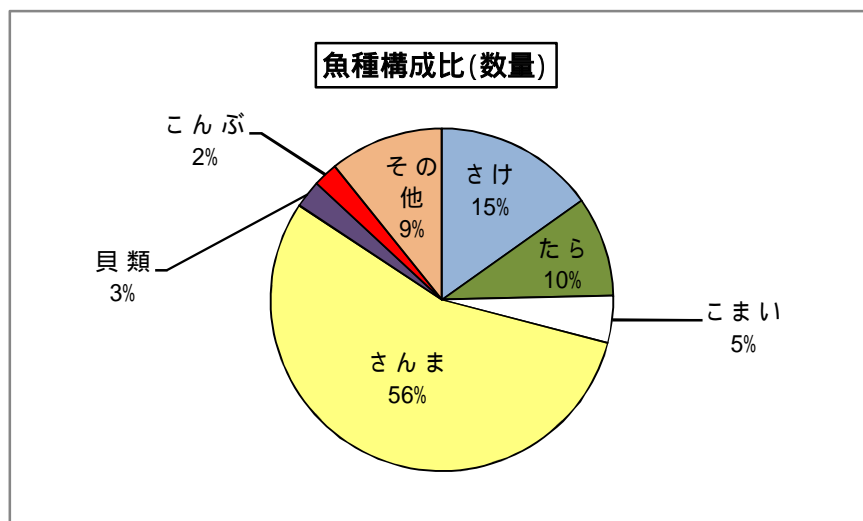
区 分	平成 17 年(2005 年)		平成 18 年(2006 年)		平成 19 年(2007 年)	
	数 量	金 額	数 量	金 額	数 量	金 額
にしん	58	19,290	47	22,294	37	15,132
いわし	0	17	1	105	1	54
さけ	11,676	4,189,917	13,546	6,096,261	16,148	6,740,530
ます	1,699	315,057	1,350	310,196	1,793	254,702
たら	8,931	2,342,081	10,057	2,933,072	10,042	3,033,286
すけとうだら	2,623	301,343	3,047	357,397	1,469	162,015
こまい	2,352	202,962	4,381	323,134	4,693	249,604
ほっけ	1,227	268,056	881	191,853	602	121,206
さんま	52,756	3,985,762	58,118	5,204,122	58,779	4,606,199
かれい	2,120	933,590	2,638	1,100,241	1,989	963,683
めぬけ	10	23,690	14	29,566	20	43,683
きちじ	124	375,840	119	370,635	114	409,671
さめ類	87	3,493	122	4,833	106	4,197
はたはた	149	32,152	90	20,558	74	15,503
あいなめ	390	73,178	231	46,749	265	43,750
そい類	27	10,743	27	12,684	35	16,180
その他魚類	1,935	262,966	1,727	311,532	1,632	284,216
魚類計	86,163	13,340,142	96,399	17,335,463	97,800	16,963,650
いか類	1,462	260,291	519	116,946	467	66,777
みずだこ	1,134	499,086	546	317,618	530	317,436
やなぎたこ	5,339	1,642,346	3,909	1,545,189	1,860	921,039
なまこ	0	17	0	31	1	1,086
毛がに	5	12,765	69	107,899	52	73,643
花咲がに	80	51,391	85	42,688	104	48,002
その他かに	145	17,313	135	17,244	152	17,948
えぞばふんうに	78	837,342	65	656,954	82	955,745
えび類	50	68,146	39	55,554	27	60,067
その他水産動物	121	23,691	74	17,646	36	9,912
水産動物計	8,415	3,412,388	5,442	2,877,769	3,310	2,471,658
ほたて貝	2,710	721,393	3,220	687,764	2,174	497,568
ほっき貝	458	173,610	453	179,230	462	164,142
かき	2	6,515	2	5,340	1	5,629
つぶ類	42	26,269	48	26,024	59	32,390
あさり	193	67,161	94	41,803	107	49,635
えぞばかがい	4	2,798	4	2,933	6	3,341
その他貝類	2	936	9	4,184	5	1,995
貝類計	3,411	998,683	3,829	947,277	2,812	754,701
こんぶ	2,909	2,414,623	2,846	2,661,265	2,443	2,589,391
その他海藻	6	14,445	5	14,127	8	29,248
海藻類計	2,914	2,429,069	2,851	2,675,392	2,451	2,618,639
合計	100,903	20,180,282	108,521	23,835,897	106,374	22,808,648

(資料:北海道水産現勢)

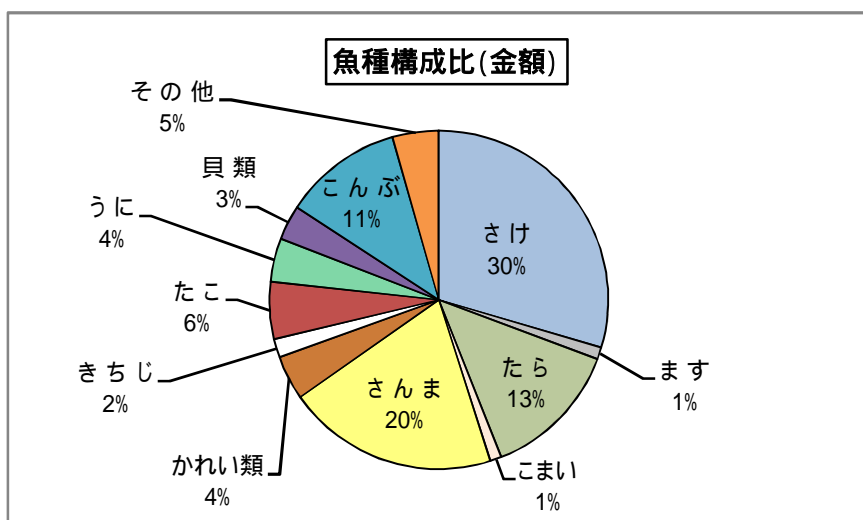
表示単位(トン・千円)未満の端数を四捨五入したため、合計欄の数値と内訳の計は必ずしも一致しない。
単位未満の数値は'0'で表示しています。

(2) 主要魚種構成比(平成 19 年実績)

魚種構成比(数量)



魚種構成比(金額)



(3) 全国主要漁港別(市場)年間取扱高ランキング(平成 20 年)

【平成 20 年 1 月 ~ 12 月】

(単位 = 数量: ト、金額: 千円、前年比: %)

順位	数 量					金 額				
	前年 順位	漁 港	20 年累計 1-12 月	19 年累計 1-12 月	前年 同期比	前年 順位	漁 港	20 年累計 1-12 月	19 年累計 1-12 月	前年 同期比
1	10	銚子	252,042	218,528	115	1	福岡	64,301,931	69,469,864	93
2	2	焼津	175,627	183,056	96	2	焼津	49,235,417	42,532,504	116
3	6	長崎	153,000	127,931	120	3	長崎	40,026,364	37,283,344	107
4	4	松浦	142,044	143,057	99	4	三崎	39,709,218	36,607,055	108
5	5	石巻	135,347	133,222	102	6	銚子	30,201,034	27,005,268	112
6	3	八戸	129,646	146,385	89	5	根室	28,753,385	27,946,531	103
7	12	気仙沼	128,026	112,311	114	7	気仙沼	28,047,524	24,564,074	114
8	13	釧路	125,679	107,570	117	9	松浦	24,203,852	23,470,522	103
9	8	根室	118,695	118,858	100	8	八戸	23,303,123	24,441,645	95
10	10	枕崎	109,403	116,541	94	10	下関	21,766,157	21,699,00	100

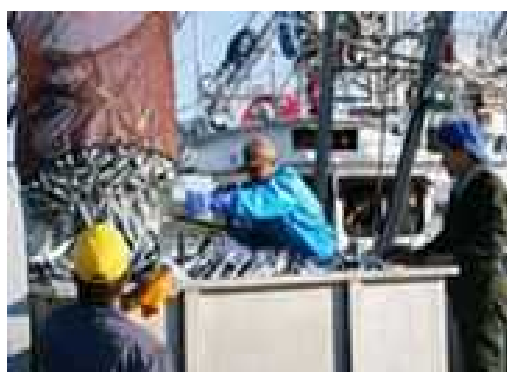
〔資料:時事通信社調べ〕

(4) 主要魚種漁期

根室市の漁業は、概ね5月のさけ・ます漁から始まり、8月のさんま漁、いか漁、9月の秋さけ漁、冬のたら漁に至るサイクルとなっています。

魚種	漁法	漁期(月)											
		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
さけ・ます	流し網					■	■	■					
秋さけ	定置網									■	■	■	
さけ春定置	定置網				■	■	■	■					
さんま	棒受網								■	■	■	■	
	流し網							■	■	■	■	■	■
たら	はえなわ	■	■	■	■	■					■	■	
すけとうだら	刺網	■	■	■									■
かれい	刺網				■	■	■	■	■				
いか	釣り								■	■	■	■	■
花咲かに	かにかご					■	■	■	■	■			
うに	たも採	(根)	■										
		(歯)	■										
	潜水記											■	■
	桁曳	(沖)			■	■	■	■					
(陸)				■	■	■	■						
ほっき	手掘					■	■	■			■	■	
	桁曳						■	■			■	■	■
あさり	手掘			■	■	■	■			■	■	■	
こんぶ	かぎ採						■	■	■	■	■		
ほたて	桁曳					■	■	■					

(根)=根室漁業協同組合 (歯)=歯舞漁業協同組合
 (落)=落石漁業協同組合 (湾)=根室湾中部漁業協同組合

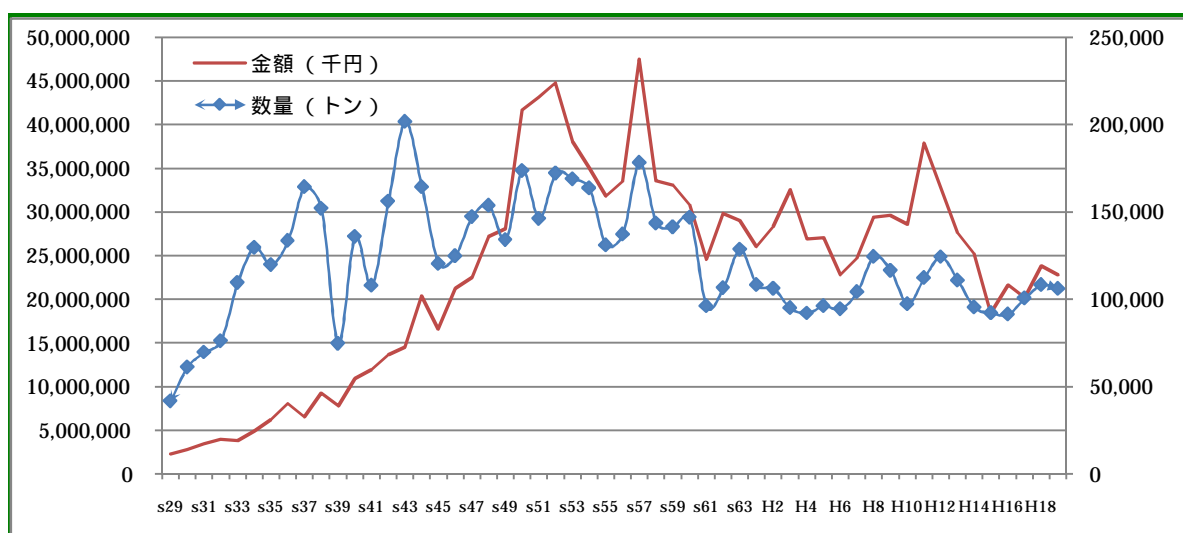


【日本一の水揚げを誇るさんま漁】

(5) 戦後の漁獲(生産)実績

年次	数量 (トン)	金額 (円)	単価 (円/kg)	年次	数量 (トン)	金額 (円)	単価 (円/kg)
昭和29年	42,077	2,299,652	54	昭和56年	137,402	33,544,551	244
昭和30年	61,499	2,833,042	46	昭和57年	178,580	47,513,801	266
昭和31年	69,959	3,467,193	49	昭和58年	143,797	33,625,032	233
昭和32年	76,527	4,010,626	52	昭和59年	141,651	33,046,919	233
昭和33年	109,803	3,818,624	34	昭和60年	147,193	30,790,871	209
昭和34年	129,854	4,969,756	38	昭和61年	96,419	24,589,809	255
昭和35年	120,112	6,293,176	52	昭和62年	106,810	29,843,333	279
昭和36年	133,733	8,123,394	60	昭和63年	128,854	29,026,503	225
昭和37年	164,625	6,544,314	39	平成元年	108,510	26,042,678	240
昭和38年	152,305	9,227,620	60	平成2年	106,581	28,324,903	265
昭和39年	74,997	7,824,345	104	平成3年	95,250	32,528,725	341
昭和40年	136,158	10,910,317	80	平成4年	92,301	26,946,415	291
昭和41年	108,140	11,988,754	110	平成5年	96,471	27,036,411	280
昭和42年	156,284	13,653,950	87	平成6年	94,731	22,783,584	240
昭和43年	201,909	14,560,558	72	平成7年	104,548	24,728,741	236
昭和44年	164,562	20,436,334	124	平成8年	124,711	29,413,143	235
昭和45年	120,565	16,554,304	137	平成9年	116,775	29,633,063	253
昭和46年	124,967	21,294,819	170	平成10年	97,585	28,633,564	293
昭和47年	147,507	22,528,307	152	平成11年	112,504	37,943,988	337
昭和48年	154,024	27,246,812	176	平成12年	124,546	32,813,451	263
昭和49年	134,309	28,107,430	209	平成13年	111,146	27,631,609	248
昭和50年	173,889	41,644,674	239	平成14年	95,717	25,207,048	263
昭和51年	146,530	43,131,671	294	平成15年	92,450	18,456,794	199
昭和52年	172,496	44,782,609	259	平成16年	91,614	21,613,366	235
昭和53年	169,193	38,034,425	224	平成17年	100,903	20,180,282	199
昭和54年	163,964	35,035,541	213	平成18年	108,521	23,835,897	219
昭和55年	131,266	31,824,256	242	平成19年	106,374	22,808,648	214

漁獲(生産)実績の推移



7

水産加工業

(1) 製品別生産実績及び販売実績

根室市の水産加工業については、さけ・ます、さんまの塩蔵品や冷凍品など、主に一次加工品の製造・販売が行われています。

また、近年の食生活の変化、輸入水産加工品の増加、需給バランスの悪化などに伴う価格低迷が続くとともに、慢性的な加工原魚不足、労働力不足、産業廃棄物処理対策、さらには高次加工への転換や食品の安全性向上など、多くの課題を抱えています。

区 分	平成 13 年 (根室市水産加工業調査初年)			平成 20 年		
	出荷量 (トン)	出荷額 (千円)	単価 (円)	出荷量 (トン)	出荷額 (千円)	単価 (円)
水産缶詰類・びん類	1,102	1,484,710	1,347	930	1,007,820	1,084
海藻加工品	-	-	-	108	363,760	3,368
すり身	-	-	-	-	-	-
冷凍品	20,243	5,024,420	248	44,468	18,250,130	410
干製品	344	407,890	1,186	971	880,960	907
塩蔵品	21,329	14,008,330	657	25,094	13,105,450	522
ゆで物類	733	1,101,760	1,503	1,538	1,314,010	854
つくだ煮	1	600	600	-	-	-
くん製品	35	63,680	1,840	-	-	-
塩辛	69	85,130	1,227	21	17,520	834
水産漬物類	247	873,620	3,537	395	1,419,970	3,594
調味水産加工品	808	963,200	1,192	2,504	2,470,370	986
魚介類前処理品	1,632	1,173,230	719	2,749	958,020	348
刺身類	2,490	3,281,230	1,318	676	1,217,300	1,801
冷凍調理食品	145	162,250	1,119	-	-	-
鮮魚・活魚	-	-	-	24,217	9,934,440	410
その他水産食料品	-	-	-	-	-	-
水産飼肥料	1,200	42,000	35	-	-	-
合 計	50,378	28,672,050	569	103,671	50,939,750	491

[資料: 根室市水産経済部調]

注 1) 北海道食品工業動態調査が平成 11 年をもって廃止されたことに伴い、平成 13 年より根室市水産加工業調査を実施する。

注 2) 平成 13 年調査の回答率は 28%、平成 20 年調査の回答率は 39%である。(次回調査: 平成 21 年)

(2) 水産加工生産高構成比 (平成 20 年実績)

生産量



生産額



8 日ロサケ・マス漁業交渉

北太平洋におけるサケ・マス漁業は、昭和 31 年(1956 年)の日ソ漁業条約に基づき、毎年、「日ロ漁業委員会」で決定された漁獲割当量に基づいて操業されていたところであり、

しかし、サケの母川国主義や海産哺乳動物の混獲などから、平成 4 年(1992 年)2 月にモスクワで開催されたサケ・マス資源の管理に関する 4 カ国会議(日本・米国・カナダ・ロシア)におきまして、「北太平洋における遡河性魚類の系群の保全のための条約」が調印され、これに基づき 1992 年からは公海におけるサケ・マス漁が禁止となり、小型船により日本 200 海里内の限られた海域で操業しています。

また、根室市では、ロシア 200 海里内で操業する日ロサケ・マス合弁事業の水揚げが昭和 63 年から始まっています。

(1) 平成 20 年(2008 年)の合意内容

日本 200 海里内の漁獲可能量等

ア. 水域別漁獲可能量

(単位:トン)

年次	太平洋側	日本海側	合計
平成 19 年	2,975	200	3,175
平成 20 年	2,855	150	3,005

イ. 魚種別漁獲可能量

(単位:トン)

区分	カラフトマス	シロザケ	ベニザケ	ギンザケ	マスノスケ	合計
平成 19 年	2,862	313	-	-	-	3,175
平成 20 年	2,705	300	-	-	-	3,005

ウ. 漁業協力費

ロシア側に支払う漁業協力費は、上限を 4 億 3,600 万円、下限を 3 億 7,100 万円とし、漁獲実績に応じて金額を確定する旨合意する。

エ. 出漁隻数

(単位:隻)

区分	根室漁協	歯舞漁協	落石漁協	湾中漁協	合計	北海道
平成 19 年	9	16	8	-	33	87
平成 20 年	7	16	9	-	32	81

日ロサケ・マス漁業交渉における漁獲割当量及び漁業協力費の推移

								(単位:トン, 億円)			
年次	回次	割当量	協力費	年次	回次	割当量	協力費	年次	回次	割当量	協力費
昭和 32 年	1	120,000	-	昭和 50 年	19	87,000	-	平成 5 年	37	4,819	7.5
昭和 33 年	2	110,000	-	昭和 51 年	20	80,000	-	平成 6 年	38	4,819	7.5
昭和 34 年	3	85,000	-	昭和 52 年	21	62,000	-	平成 7 年	39	5,123	7.5
昭和 35 年	4	67,500	-	昭和 53 年	22	42,500	17.6	平成 8 年	40	5,123	7.5-6.9
昭和 36 年	5	65,000	-	昭和 54 年	23	42,500	32.5	平成 9 年	41	5,123	7.5-6.7
昭和 37 年	6	115,000	-	昭和 55 年	24	42,500	37.5	平成 10 年	42	5,123	7.5-6.7
昭和 38 年	7	120,000	-	昭和 56 年	25	42,500	40.0	平成 11 年	43	5,370	7.75-7.03
昭和 39 年	8	110,000	-	昭和 57 年	26	42,500	40.0	平成 12 年	44	5,920	8.59-7.03
昭和 40 年	9	115,000	-	昭和 58 年	27	42,500	42.5	平成 13 年	45	5,170	7.70-6.70
昭和 41 年	10	96,000	-	昭和 59 年	28	40,000	42.5	平成 14 年	46	4,100	6.10-5.25
昭和 42 年	11	108,000	-	昭和 60 年	29	37,600	42.5	平成 15 年	47	4,100	6.15-5.45
昭和 43 年	12	93,000	-	昭和 61 年	30	24,500	35.0	平成 16 年	48	3,660	5.48-4.88
昭和 44 年	13	103,000	-	昭和 62 年	31	24,500	37.0	平成 17 年	49	3,560	5.33-4.74
昭和 45 年	14	90,000	-	昭和 63 年	32	17,668	33.5	平成 18 年	50	3,340	5.00-4.45
昭和 46 年	15	95,000	-	平成 元年	33	15,000	33.5	平成 19 年	51	3,175	4.76-4.04
昭和 47 年	16	87,000	-	平成 2 年	34	11,000	31.5	平成 20 年	52	3,005	4.36-3.71
昭和 48 年	17	91,000	-	平成 3 年	35	9,000	28.4				
昭和 49 年	18	83,000	-	平成 4 年	36	2,819	4.4				

(注)平成 3 年以前の数値は、公海分を含む。

[資料:根室市水産経済部調]

ロシア 200 海里内の漁獲可能量等

ア. 漁獲割当量

(単位:トン)

年次	中型船				小型船	合計
	計	全鮭連	北友水産	ホクヨー	道鮭連	
平成 19 年	5,775	1,675	2,750	1,350	4,500	10,275
平成 20 年	5,775	1,675	2,750	1,350	3,960	9,735

イ. 水域・魚種別漁獲可能量 (2008 年)

(単位:トン)

水域	魚種	合計	シロザケ	ベニザケ	その他
1 区	中 型	4,383.6	2,289.0	2,000.0	94.6
	小 型	-	-	-	-
	計	4,383.6	2,289.0	2,000.0	94.6
2 区	中 型	647.1	558.9	29.4	58.8
	小 型	1,972.4	1,791.2	119.6	61.6
	計	2,619.5	2,350.1	149.0	120.4
2a 区	中 型	-	-	-	-
	小 型	440.0	400.0	1.0	39.0
	計	440.0	400.0	1.0	39.0
3a 区	中 型	744.3	420.0	255.0	69.3
	小 型	1,547.6	880.0	595.0	72.6
	計	2,291.9	1,300	850.0	141.9
合計	中 型	5,775.0	3,267.9	2,284.4	222.7
	小 型	3,960.0	3,071.2	715.6	173.2
	計	9,735.0	6,339.1	3,000.0	395.9

その他 …… カラフトマス、ギンザケ、マスノスケ

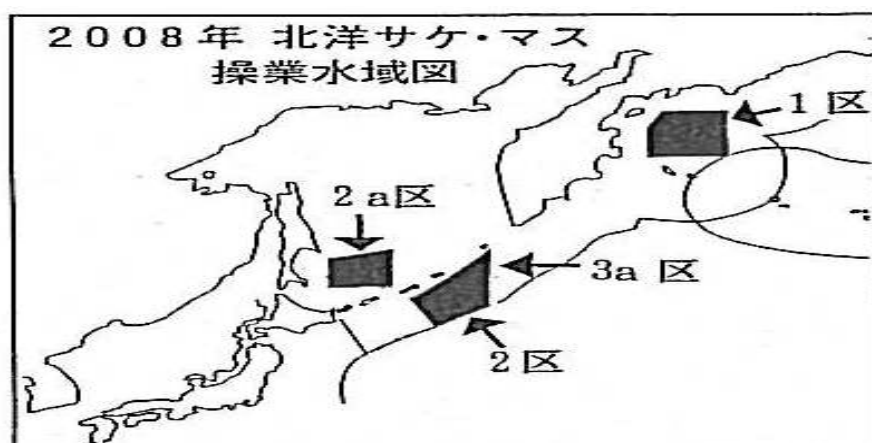
ウ. 有償入漁料(中型・小型船)

キロ単価 307 円/kg (前年比 14 円 49 銭増)

エ. 出漁隻数

43 隻 (中型船 21 隻(うち根室船籍 14 隻)
 小型船 22 隻(うち根室船籍 17 隻))

(2) 日ロサケ・マス漁業交渉操業区域図



日本とロシアとの間では、昭和59年(1984年)12月に成立した「地先沖合漁業協定」に基づき、毎年、操業条件について日ロ漁業委員会が決定し、相手国200海里水域内に入漁しています。

平成20年12月の日ロ漁業委員会第25回会議では、ロシア国内の漁業制度が自国水産業の育成を重視する方向に見直され、資源管理が一層強化されている中での厳しい交渉でありましたが、最終的に前年と同量である5万7千163トンの漁獲割当量を確保しています。

(1) 平成21年(2009年)の合意内容

ロシア200海里水域における日本漁船の操業条件等

ア. 相互入漁

- 総漁獲割当量 51,953 トン (平成20年: 51,953 トン)
- 総隻数 546 隻 (平成20年: 549 隻)

イ. 有償入漁

- 総漁獲割当量 5,210 トン (平成20年: 5,210 トン)
- 入漁料 2億1,300万円 (平成20年: 2億1,300万円)
- 総隻数 45 隻 (平成20年: 45 隻)

ウ. 追加協議

- 西ベーリング水域で追加割当が生じた場合、日本漁船への配分を最優先に協議。

< 主な魚種別の漁獲割当量 >

(単位: トン)

魚種	平成20年(2008年)		平成21年(2009年)	
	相互入漁	有償入漁	相互入漁	有償入漁
スケトウダラ	4,752	3,000	4,752	3,000
マダラ	537	190	537	190
サンマ	35,500	-	35,500	-
イカ	9,645	760	9,645	760
その他	1,519	1,260	1,519	1,260
計	51,953	5,210	51,953	5,210
	57,163		57,163	

日本200海里水域におけるロシア漁船の操業条件等

ア. 相互入漁

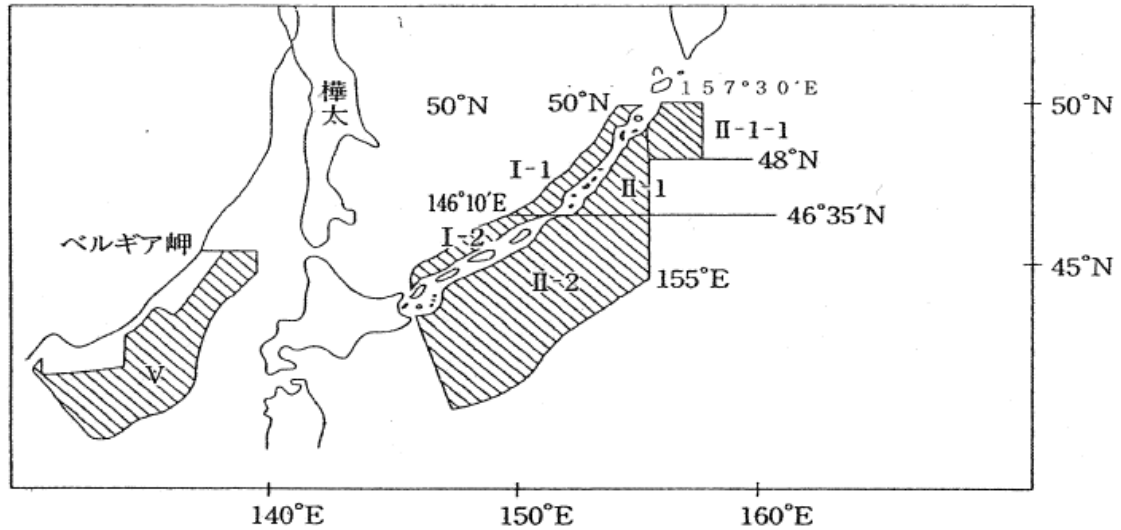
- 総漁獲割当量 51,953 トン (平成20年 51,953 トン)
- 総隻数 101 隻 (平成20年 104 隻)

< 主な魚種別の漁獲割当量 >

(単位: トン)

魚種	平成20年(2008年)	平成21年(2009年)
イワシ・サバ	12,200	12,200
イトヒキダラ	27,800	27,800
サンマ	11,953	11,953
その他	-	-
計	51,953	51,953

(2) 日口地先沖合漁業交渉操業海域図



相互入漁水域		
- 1 区	千島 (オホーツク海側北)	底はえ縄
- 2 区	千島 (オホーツク海側南)	底はえ縄
- 1 区	千島 (太平洋側北)	中層トロール、底はえ縄、棒受網
- 1 - 1 区	千島 (太平洋側北)	中層トロール、着底トロール、底はえ縄
- 2 区	千島 (太平洋側南)	底はえ縄、棒受網
区	日本海	いか釣り
有償入漁水域		
- 2 区	千島 (太平洋側南)	着底トロール、中層トロール

[資料 : 北海道水産林務部漁業指導課]

(1) 協定の経過

戦前、根室市の一部(旧歯舞村)の歯舞諸島では、多くの漁民が昆布採取で生計を立てていたところでありました。なかでも貝殻島は昆布の好漁場でありました。

しかし、終戦後の昭和 20 年 11 月、納沙布岬と貝殻島間の瑤瑠瑠水道(幅 3.7km)に「マッカーサーライン」が引かれ、貝殻島周辺水域は事実上旧ソ連が支配することとなります。

当時は、納沙布岬を中心とする沿岸零細漁民のほとんどが昆布採取を生業としており、だ補の危険を冒して貝殻島に出漁しなければ、日々の生活を送ることはできないほどです。このため漁民は無理な操業を重ね、だ捕される漁船が相次ぐ状態が続いています。

この結果、貝殻島周辺での安全操業を求める声は年とともに広がり、当時の大日本水産会会長であった高碇達之助氏の尽力により、昭和 38 年 6 月 10 日、大日本水産会と旧ソ連国民経済会議付属漁業国家委員会との間に、異例の民間協定が締結されたのです。

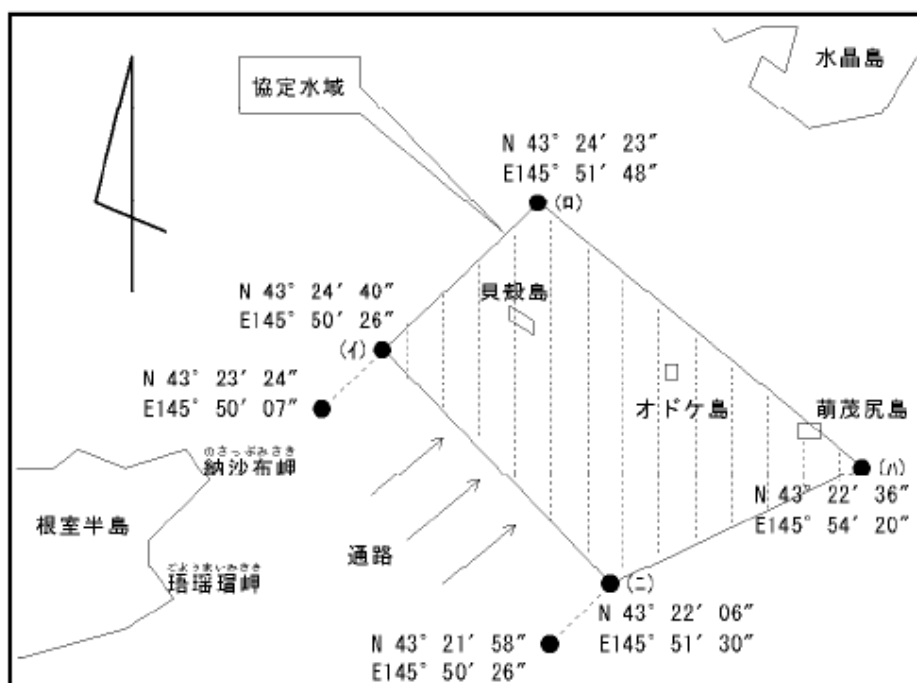
その後、この協定は 14 年間継続されましたが、昭和 52 年の 200 海里元年に交渉は中断し、この 4 年後、当時の北海道水産会会長であった川端元治氏や道水産会理事の金沢幸雄氏等の努力により、再び民間協定が北海道水産会と旧ソ連邦漁業省との間に締結されています。

また、昭和 62 年の交渉により、同水域において駆除のためウニ漁業が開始されていますが、初期の目的を達成したため平成 4 年度に終了しています。

近年では、交渉の長期化に伴う出漁の遅れなどによる生産量の減少やロシア側に支払う採取料の負担等で漁業者は厳しい経営を強いられており、操業隻数も年々減少し、平成 19 年に至ってはピーク時の約 30%減の 251 隻となり、極めて深刻な状況となっています。

現在、根室市はこうした状況を踏まえて、本漁業が日ロ双方の友好親善に寄与してきたこと、また今後も持続的な漁業として操業継続できるよう、採取料の縮減と交渉の早期合意をロシア側に強く求めています。

(2) 日ロ貝殻島昆布採取協定操業水域図



(3) 貝殻島昆布（ウニ）漁の推移

（単位 数量：トン 金額：千円）

年次	回次	コ ン ブ 漁				ウ ニ 漁			
		隻数	採取料	生産量	生産金額	隻数	入漁料	水揚量	水揚金額
昭和38年	1	300	3,600	1,195	143,125	-	-	-	-
昭和39年	2	300	3,600	1,035	153,517	-	-	-	-
昭和40年	3	300	3,600	668	129,143	-	-	-	-
昭和41年	4	300	3,600	1,049	198,154	-	-	-	-
昭和42年	5	300	3,600	833	163,272	-	-	-	-
昭和43年	6	300	3,600	473	102,142	-	-	-	-
昭和44年	7	330	3,600	841	189,093	-	-	-	-
昭和45年	8	330	3,600	466	186,984	-	-	-	-
昭和46年	9	330	3,600	915	346,398	-	-	-	-
昭和47年	10	330	3,600	1,058	394,864	-	-	-	-
昭和48年	11	330	3,600	982	457,920	-	-	-	-
昭和49年	12	330	3,600	865	666,080	-	-	-	-
昭和50年	13	330	17,160	854	586,321	-	-	-	-
昭和51年	14	330	17,160	964	784,121	-	-	-	-
昭和52年	-	-	-	-	-	-	-	-	-
昭和53年	-	-	-	-	-	-	-	-	-
昭和54年	-	-	-	-	-	-	-	-	-
昭和55年	-	-	-	-	-	-	-	-	-
昭和56年	15	330	66,000	506	652,353	-	-	-	-
昭和57年	16	330	66,000	1,157	1,250,781	-	-	-	-
昭和58年	17	375	75,000	551	667,280	-	-	-	-
昭和59年	18	375	78,750	847	959,488	-	-	-	-
昭和60年	19	375	91,350	927	610,373	-	-	-	-
昭和61年	20	375	107,500	733	683,156	-	-	-	-
昭和62年	21	375	110,500	1,031	990,539	17	57,000	259	328,277
昭和63年	22	375	115,000	680	643,551	18	62,000	245	271,908
平成元年	23	375	115,000	735	688,608	10	36,000	126	158,561
平成2年	24	375	118,000	582	535,421	10	38,380	130	225,932
平成3年	25	375	120,000	860	1,006,028	10	42,000	128	186,095
平成4年	26	375	122,000	809	926,998	10	43,000	68	106,797
平成5年	27	375	122,000	842	998,985	-	-	-	-
平成6年	28	375	124,000	455	591,179	-	-	-	-
平成7年	29	375	124,000	656	805,698	-	-	-	-
平成8年	30	375	124,000	362	479,286	-	-	-	-
平成9年	31	375	124,000	275	362,117	-	-	-	-
平成10年	32	375	124,000	487	608,958	-	-	-	-
平成11年	33	375	124,000	272	472,191	-	-	-	-
平成12年	34	375	124,000	571	666,114	-	-	-	-
平成13年	35	375	124,000	463	625,045	-	-	-	-
平成14年	36	375	124,000	737	658,007	-	-	-	-
平成15年	37	375	120,000	420	394,601	-	-	-	-
平成16年	38	375	122,000	681	547,149	-	-	-	-
平成17年	39	281	122,000	384	359,042	-	-	-	-
平成18年	40	259	73,200	316	356,761	-	-	-	-
平成19年	41	251	97,600	285	369,642	-	-	-	-
平成20年	42	249	85,400	247	366,169	-	-	-	-

昭和52年から昭和55年までは交渉中断

北方四島周辺ロシア主張領海水域では、戦後ソ連・ロシア国境警備船による拿捕・銃撃問題が頻繁に発生していましたが、平成6年(1994年)当時のロシアのポキージン南クリール地区長が根室市長に対し入漁料方式の民間漁業協力を呼びかけたことを発端として本操業の交渉が始まります。

開始からほぼ3年後の平成9年(1997年)12月30日第13回目の交渉で妥結し、翌年の2月21日に協定の調印が行われています。

主権問題が最大の焦点となった同交渉は、日本側がロシア側に対し資源保護への協力費を支払うほか、北海道水産会が1,500万円相当の機材を供与することとし、「いずれの政府の立場および見解をも害するものとみなしてはならない」とし、本協定が北方領土問題に対する日ロ両国の法的な立場を侵さないものとなっています。

平成10年(1998年)5月21日には、同年の具体的な操業内容に係る了解覚書がロシア連邦農業食料省及びロシア連邦国境警備隊庁と北海道水産会との間で取り交わされ、その年の10月1日より操業が開始されています。

なお、操業の運用は北海道水産会が自主管理し、漁獲枠、操業水域、魚種などは毎年見直しされています。

(1) 平成21年(2009年)の合意内容

漁獲量(操業水域A及びBの合計)

- 総漁獲量 2,180トン(平成20年2,180トン)
 - ・すけとうだら 955トン
 - ・ほっけ 777トン
 - ・たこ 216トン
 - ・その他 232トン

漁期(前年同様)

- すけとうだら刺し網漁業 1月1日～3月15日
- ほっけ刺し網漁業 9月16日～12月31日
- たこ空釣り漁業 1月1日～1月31日
10月16日～12月31日

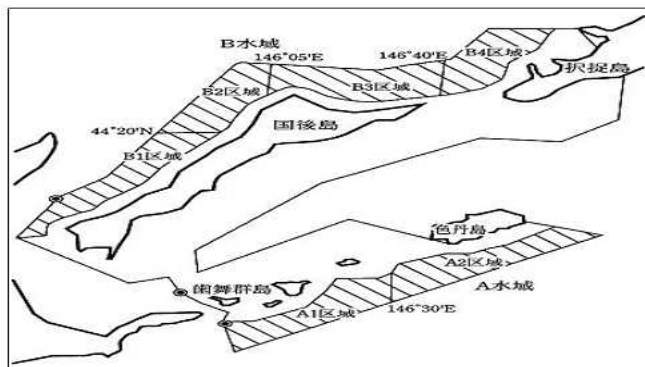
隻数(前年同様)

- 総隻数 48隻

資源保護協力金等(前年同様)

- 協力金 2,130万円
- 機材供与 2,110万円

(2) 北方四島安全操業交渉操業水域図



(1) 政府間交渉

日ロ漁業合同委員会交渉

< 日ロサケ・マス漁業交渉 > 平成 20 年の合意内容

- > 日本 200 海里内
 - ・ 漁獲可能量 3,005 トン
 - ・ 漁業協力費 上限 4 億 3,600 万円、下限 3 億 7,100 万円の漁獲実績方式
 - ・ 出漁隻数 81 隻(うち根室船籍 32 隻)

日ロ漁業委員会交渉

< 日ロ地先沖合漁業交渉 > 平成 21 年の合意内容

- > ロシア 200 海里水域における日本漁船の操業
 - ・ 相互入漁
 - 総漁獲割当量 51,953 トン
 - 総隻数 546 隻
 - ・ 有償入漁
 - 総漁獲割当量 5,210 トン
 - 入漁料 2 億 1,300 万円
 - 総隻数 45 隻
- > 日本 200 海里水域におけるロシア漁船の操業条件等
 - ・ 相互入漁
 - 総漁獲割当量 51,953 トン
 - 総隻数 101 隻

北方四島安全操業交渉

< 北方四島安全操業交渉 > 平成 21 年の合意内容

- > 北方四島周辺水域(ロシア主張 200 海里内における日本漁船の操業)
 - ・ 漁獲量 2,180 トン(操業水域 A 及び B の合計)
 - ・ 漁期
 - すけとうだら刺し網漁業 1/1 ~ 3/15
 - ほっけ刺し網漁業 9/16 ~ 12/31
 - たこ空釣り漁業 1/1 ~ 1/31、10/16 ~ 12/31
 - ・ 総隻数 48 隻
 - ・ 資源保護協力金等 4,240 万円
 - 【内 訳】 協力金 : 2,130 万円
 - 機材供与 : 2,110 万円

(2) 民間交渉

日ロ合同委員会協議

< 日ロサケ・マス漁業交渉 > 平成 20 年の合意内容

- > ロシア 200 海里内
 - ・ 漁獲割当量 9,735 トン
 - ・ 有償入漁料 キロ単価 307 円
 - ・ 出漁隻数 43 隻(うち根室船籍 31 隻)

貝殻島昆布交渉 平成 20 年の合意内容

貝殻島昆布交渉	—	貝殻島周辺水域	—	昆布	—	出漁許可 249 隻
交渉		ロシア主張				(6/1 ~ 9/30)
北海道水産会		200 海里内				採取料 85,400 千円
						採取量 3,920 トン

13 魚介類輸出入の推移

(1) 魚介類の輸入

平成3年からの旧ソ連人立ち入り規制緩和に伴いサハリン州、カムチャツカ州及び沿海州方面から、運搬船による花咲港への魚介類の輸入が行われています。

(単位 数量:トン 金額:千円)

魚種	年次	平成15年	平成16年	平成17年	平成18年	平成19年	平成20年
		数量	2,228	2,728	2,693	1,917	856
花咲ガニ・アブラガニ・タラバガニ	金額	1,559,866	1,751,453	1,851,209	1,062,314	502,855	238,107
ズワイガニ	数量	23	38	397	118	123	34
	金額	4,389	15,022	140,577	67,732	75,525	17,660
毛ガニ	数量	324	427	354	241	73	36
	金額	433,998	602,840	550,719	291,457	119,934	36,519
その他の活カニ	数量	947	685	310	37	2	-
	金額	434,043	253,610	104,993	20,527	1,220	-
活ウニ	数量	8,849	9,127	10,332	11,174	9,834	7,568
	金額	4,331,808	4,101,962	4,526,149	5,125,072	4,915,188	4,231,979
その他生鮮魚介類	数量	422	696	1,001	371	161	122
	金額	164,404	195,368	290,933	148,673	81,244	43,387
冷凍サケマス	数量	567	165	266	135	263	113
	金額	335,111	73,594	122,051	65,883	142,830	56,828
冷凍カニ	数量	57	7	5	-	-	5
	金額	68,310	6,847	3,188	-	-	6,819
冷凍エビ	数量	346	253	184	161	101	88
	金額	278,431	226,370	202,791	190,172	143,446	170,341
その他冷凍魚介類	数量	292	91	123	143	135	47
	金額	132,874	46,353	68,366	82,884	104,518	52,342
合計	数量	14,055	14,217	15,665	14,297	11,548	8,340
	金額	7,743,234	7,273,419	7,860,976	7,054,714	6,086,760	4,853,982

平成15～19年は確定値、平成20年の数値は速報値

(資料:根室税関支署調)

(2) 魚介類の輸出

若干ではありますが、冷凍サンマ・サケマス・タラなどが輸出されています。中でも、年間輸出の7割以上が12月の冷凍サンマに集中しているのが特徴であります。

(単位 数量:トン 金額:千円)

魚種	年次	平成15年	平成16年	平成17年	平成18年	平成19年	平成20年
		数量	999	80	-	72	189
冷凍サケ	金額	119,393	10,010	-	20,220	42,216	5,841
冷凍タラ	数量	293	271	158	56	19	-
	金額	44,368	40,478	24,565	7,509	2,652	-
冷凍イカ	数量	20	11	4	4	19	2
	金額	5,480	2,926	1,571	247	5,260	232
その他冷凍魚介類	数量	257	93	97	471	58	291
	金額	157,110	50,873	20,399	68,888	27,383	22,849
合計	数量	1,569	455	259	603	285	317
	金額	326,351	104,287	46,535	96,864	77,511	28,922

平成15～19年は確定値、平成20年の数値は速報値

(資料:根室税関支署調)

14 沿岸漁業の振興

(1) 沿岸漁業の振興に関する施策

根室市は、これまで水揚げの大半を占めていた北洋漁業が縮減を余儀なくされ、平成 12 年末の日口地先沖合漁業交渉においても、漁獲割当量が大幅に削減されるという非常に厳しい状況にあります。

こうした中で、沿岸漁業に対する期待は非常に高まっていますが、当市は沿岸漁業の経営規模が小さいこと、漁場が狭隘なため資源の枯渇が起こりやすいことなど、多くの課題を抱えています。現在、つくり育てる漁業の推進が強く求められており、沿岸資源の増大を目指した「沿岸漁業振興対策事業」等の各種施策をはじめ、漁協や水産技術普及指導所等と連携して資源調査等を実施しています。

(2) 沿岸漁業振興対策事業等の実績（平成 20 年度実績）

（単位：千円）

事業名	事業主体	実施場所	事業規模	事業費	
				事業費	市費負担
水産業振興構造改善事業 （漁業生産基盤等整備）	歯舞漁協	貝殻島周辺	有害生物等の除去 223,200 m ²	78,599	3,727
沿岸漁業振興対策事業 （水産資源調査）	根室海域ハナサキガニ資源維持増大対策連絡協議会	太平洋沿岸海域	ハナサキガニ調査一式	2,013	950
同 （漁場改良）	根室漁協	根室海域	ヒトデ駆除 16,020 kg	2,520	1,200
同 （特認）	根室漁協	弁天島地先	ウニ養殖 籠 14 籠 筏 2 基 機械 2 台 用船 6 隻	3,320	1,580
さけ・ます再生産対策事業 （ふ化放流）	根室市鮭鱒保護協力会	別当賀川 他 4 箇所	ふ化放流一式	6,496	900
同 （河川環境整備）	落石漁協	別当賀	植栽 2,500 本	1,050	400
北方領土隣接地域振興等 基金事業（種苗放流）	根室漁協	桂木地先	ホッキ 120,000 粒	6,300	-
同	根室漁協	カニ岩地先	ウニ 250,000 粒	10,500	-
同	根室漁協	穂香地先	エビ 83,350 尾	5,252	-
同	歯舞漁協	豊里地先	アサリ 280,000 粒	2,940	-
同	歯舞漁協	友知地先	ホッキ 56,000 粒	2,940	-
同	落石漁協	落石地先	ウニ 人工 400,000 粒 天然 162,500 粒	9,771	-
同	落石漁協	落石地先	ホタテ 3,000,000 粒	9,450	-
同	湾中漁協	幌茂尻地先	ウニ 200,000 粒	6,300	-

(単位:千円)

事業名	事業主体	実施場所	事業規模	事業費	
				事業費	市費負担
北方領土隣接地域振興等 基金事業(種苗放流)	湾中漁協	温根沼	ウニ 150,000粒	6,300	
同	湾中漁協	風連湖 温根沼	エビ 67,000尾	4,221	
北方領土隣接地域振興等 基金事業(ふ化放流)	湾中漁協	風連湖 温根沼	チカ・クロガシラガレイ・ ワカサギ各5千万粒	989	
同 (種苗移植)	根室漁協	オホーツク 地先	ウニ 250,000粒	5,444	
同	歯舞漁協	友知～ 豊里地先	ウニ 2,633,300粒	31,166	
同	落石漁協	落石地区	ウニ 375,000粒	5,671	
同 (貝類漁場造成)	根室漁協	桂木地区	ホッキ 230,400m ²	5,460	
同	歯舞漁協	友知地先	ホッキ 184,320m ²	4,713	
同	湾中漁協	東梅地先	アサリ 掘削600m ³ 砂盛均し3,000m ³	1,103	
同 (共同研究推進)	根室市ハナサ キ・プログラム 推進委員会	太平洋 沿岸域	ハナサキガニ 共同研究一式	5,876	
北方領土隣接地域振興等 事業推進費補助金 (有害生物駆除)	根室漁協	根室海域湾	ヒトデ駆除 370,750kg	25,490	
同	落石漁協	落石地区	ヒトデ駆除 45,560kg	4,912	
同	湾中漁協	春国岱地先	ヒトデ駆除 120,000kg	13,829	
同 (藻場造成)	根室漁協	桂木地先	底質改善 10,000m ²	2,520	
同	歯舞漁業	友知～ 納沙布地先	底質改善 244,000m ²	42,000	
同	落石漁協	落石地先	底質改善 50,000m ²	3,265	
同 (養殖)	落石漁協	落石地先	ウニ 人工400,000粒 天然87,500粒	6,222	
平成20年度沿岸漁業振興対策事業費の総合計				316,632	8,757

15 根室市ウニ種苗生産センター

根室半島沿岸では、カレイ刺網・コンブ・ウニ・ホッキ・ハナサキガニ漁業等が営まれています。中でも重要な位置にあるウニ漁業(たも採・潜水)は、昭和51年の183トンを最高に漁獲量は年々減少し、資源枯渇が懸念されています。

こうした状況の中、昭和57年から漁業協同組合が人工種苗の生産試験に取り組み、種苗の大量生産技術を確立したことを機に、ウニ資源増大をめざして「根室市ウニ種苗生産センター」を建設し、平成3年4月1日から供用を開始しています。

この施設では、供用開始後、前浜資源として市内各漁協に供給するため、年間500万粒の種苗を生産し、漁獲水揚げは平成8年度よりはじまっています。

また、施設の運営は、根室市をはじめ市内の4つの漁業協同組合で「根室市ウニ種苗生産センター運営委員会」を組織し、種苗の生産と供給を効率的に行っています。

(1) 施設の概要

施設名	根室市ウニ種苗生産センター	構造	鉄骨造平家建(2棟)
所在地	根室市温根元24番地6	竣工	平成3年2月25日
事業主体	根室市	生産能力	年間500万粒
事業名	新沿岸漁業構造改善事業 (後期対策)	関係組合	管理組合: 歯舞漁業協同組合 (根室・歯舞・落石・湾中)
総事業費	617,000千円 国庫補助 304,673千円 道補助 152,336千円	面積	3,510.50㎡ A棟 1,830.50㎡ B棟 1,680.00㎡

(2) 年次別ウニ種苗の生産状況

(単位: 万粒)

年次 区分	平成15年	平成16年	平成17年	平成18年	平成19年	平成20年
計画	500.0	500.0	500.0	500.0	500.0	500.0
実績	837.3	732.9	775.4	864.0	870.8	670.0
平均サイズ	10.0mm	9.5mm	9.4mm	9.5mm	9.8mm	7.5mm

平均サイズとは、規格種苗の平均実績サイズをいう。

(3) ウニ人工種苗生産工程表

項目	月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
餌料	キートセラスグラシリス培養												
	アワビモ培養												
採苗	採卵												
	幼生飼育												
	沈着												
育成	育成												
種苗	稚ウニ分散												
	出荷												

16 根室市水産加工振興センター

根室市は、水産加工製品の開発及び試作研究並びに加工技術の向上を図るとともに、地場特産品の生産を促進して水産加工業の振興を図ることを目的に「根室市水産加工振興センター」を設置しています。

施設内部には、新製品の試作研究や加工技術の研修・相談等を行う「水産加工技術研修センター」と、試作した特産加工品の製造を行う「水産特産品加工場」が併置されています。

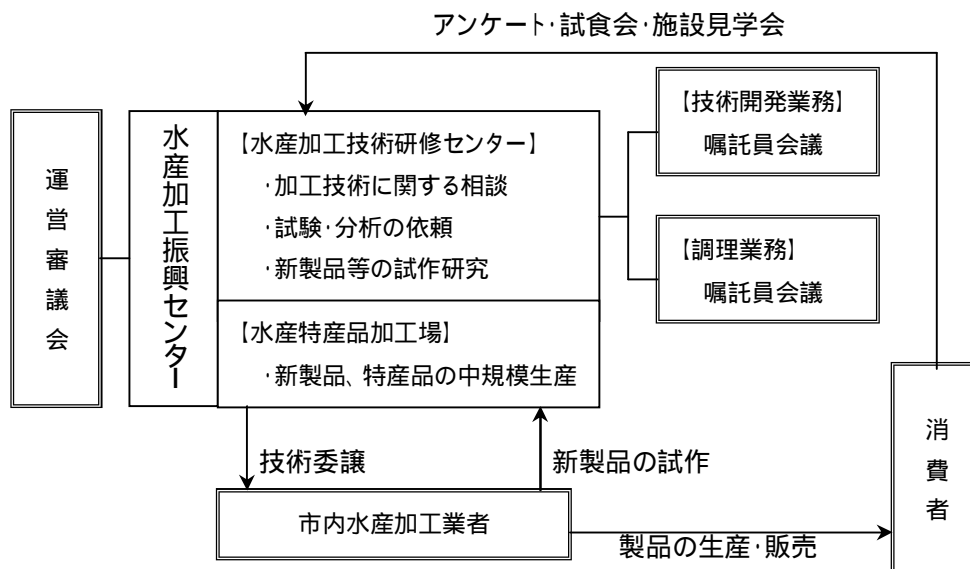
(1) 施設の概要

区 分	水産加工技術研修センター	水産特産品加工場
所 在 地	根室市花咲港 374 番地	
敷 地 面 積	2,730.00 m ²	
総 事 業 費	102,280 千円	112,870 千円
竣 工	昭和 53 年 12 月 25 日	昭和 58 年 3 月 20 日

(2) 利用状況

区分	年度	平成 15 年度		平成 16 年度		平成 17 年度		平成 18 年度		平成 19 年度	
		件数	人数	件数	人数	件数	人数	件数	人数	件数	人数
研修センター		153	231	196	251	116	151	50	91	36	54
特産品加工場		175	435	217	413	300	493	205	366	204	330
相談・分析		242	-	267	-	200	-	153	-	189	-
視察・見学者		-	120	-	213	-	73	-	212	-	156
合 計		570	786	680	877	616	717	408	669	429	540

(3) 関連系統図



(4) 各種機器類

水産加工品の試作・研究を行うために、センター内には実験用の精密機器をはじめ、試作・開発に係る機器が整備されています。

〔主な機器一覧〕

1	インクラスティングマシン	12	真空フライヤー装置
2	インジェクター	13	真空包装機
3	FM フィッシュスライサー	14	スプレードライヤー
4	加圧真空式レオニーダー	15	成型機
5	過熱蒸気処理装置	16	全自動スモッキングマシーン
6	ガス置換包装機	17	超遠心分離機
7	減圧加熱濃縮装置	18	低温乾燥試験装置
8	高温高圧調理殺菌試験機	19	特殊パフ加工機
9	自動魚肉水晒脱水装置	20	ドラムドライヤー試験機
10	ジュール加熱装置	21	膜分離装置
11	食品加圧試験装置	22	密着式真空包装機

(5) 試験・分析・検査等

水産加工品の試作・開発のため、試験研究や各種分析・検査を実施しています。

試験 …… 保存試験・乾燥試験・その他

分析 …… ア. 食品添加物(発色剤ほか)

イ. 食品成分(水分・粗蛋白質・粗脂肪・灰分・塩分・遊離アミノ酸ほか)

検査 …… 細菌検査 (一般生菌数・大腸菌群・大腸菌・腸炎ビブリオ
黄色ブドウ球菌・サルモネラほか)

〔主な実験室機器〕

アミノ酸分析システム・回転粘土計・乾熱滅菌器・クリーンベンチ・
顕微鏡・ゲルダール分解装置・恒温恒湿器・高速冷却遠心機・
迅速微生物測定器・水分活性測定器・ソックスレー抽出器・
ふらん器・分光光度計・PHメーター・マッフル炉・
メディカルフリーザー ほか

17 根室市水産研究所

根室市は安定した水産資源の確保を目的に、増養殖事業や資源管理型漁業を積極的に推進しておりますが、同時に水産研究所において、根室を代表する有用海産物の基礎的研究を行い、種苗生産技術の確立による沿岸資源の増大を目指しております。

特に根室の特産物を代表するハナサキガニは、平成9年から平成12年までの4ヶ年実施された基礎研究、さらに平成13年から平成15年までの3ヶ年実施された完全養殖に向けた飼育試験など、7ヶ年に亘りハナサキガニの人工種苗に関する飼育実証試験を実施しております。

現在も、将来の大量種苗生産を目指した、効率的でより安定した種苗生産を目的とした飼育環境の条件を確立する試験に取り組んでおります。

今後はより安定した大量種苗生産と、高い生残率の期待できる集団的中間育成の技術確立を目指した飼育実験を計画しており、将来的には安定した種苗生産による稚ガニ放流事業の拡大と資源増大を目指しております。

(1) 施設の概要

施設名	根室市水産研究所	敷地面積	5,557.32 m ²
所在地	根室市温根元 168 番地	建物面積	延面積 1,099.19 m ² (研究所 1,041.69 m ² 温室 31.50 m ² ポンプ室 26.00 m ²)
総事業費	687,839 千円		
竣工	平成 8 年 9 月 5 日		

(2) 設備の概要

取水	海水濾過装置			
	・一次濾過装置	2 基	8t/h	(紫外線滅菌装置付)
	・二次濾過装置	2 基	7t/h	
・精密濾過装置	1 基	2.5t/h		
水槽	・大型丸底水槽	4 基	500 ㍓	
	・丸底孵化水槽	10 基	120 ㍓	
	・微細藻類等水槽	15 基	100 ㍓	
	・FRP水槽 (a)	12 基	2,000 ㍓	
	・FRP水槽 (b)	6 基	2,200 ㍓	
	・FRP水槽 (c)	4 基	1,500 ㍓	
	・アクリル水槽(a)	1 基	1,700 ㍓	
・アクリル水槽(b)	2 基	500 ㍓		
特殊空調	特殊空調室			
	・恒温室	3 室	(実験室・培養室・低温室)	

(3) 研究の概要

ハナサキガニの種苗生産試験

ハナサキガニ種苗生産の基礎技術は、ほぼ確立したところでありますが、しばしば発生する幼生の大量斃死によって、生残率は安定していないのが現状であります。これは飼育水の悪化や病原性細菌の発生が原因と考えられることから、安定した種苗生産技術を確立するために水質の浄化及び細菌の除去に優れた飼育方法の開発をすすめています。

ハナサキガニの中間育成試験

ハナサキガニの中間育成は、海中で垂下飼育する方法を実施してきましたが、生残率は低迷しているのが現状であります。これは健苗性や共食いによる減耗が原因と考えられることから、当研究所では生残率向上を目指した陸上水槽での中間育成技術の確立をすすめています。

ハナサキガニの養成試験

現在、ハナサキガニの種苗生産に必要な受精卵は、天然の親ガニに依存しています。しかし、近年漁獲される前浜産の親ガニの確保が難しい状況にあることから、良質な受精卵を安定的に確保するために親ガニ養成技術の確立をすすめています。

有用海産生物の増養殖試験

ホッカイエビやエゾバイ等、地先で漁獲される海産生物の初期生活史の解明ならびに資源培養に関する基礎研究を実施しています。

(4) 視察者数

根室市水産研究所では、学術的な視察はもちろんのこと、行政視察や学校教育における総合学習等の視察に対応した研究施設の案内、研究概要の説明などを随時行っております。

年度	区分			団体	人数
	大人	子供	計		
平成 15 年度	407	208	615	20 団体	537
平成 16 年度	279	233	512	10 団体	363
平成 17 年度	219	41	260	13 団体	157
平成 18 年度	233	69	302	14 団体	91
平成 19 年度	398	10	408	16 団体	250
平成 20 年度	458	13	471	10 団体	235

世界的な消費者の食品全般に対する安全性の意識が高まりを見せる中、根室市は水産食品の供給基地として、「より安全で安心」な水産食品を提供する大きな使命を担っています。

こうした認識のもと、根室市は平成12年7月に水産物の品質・衛生管理を向上することを目的に、関係団体や業界が一体となって漁獲から市場・加工・流通を通じて、一貫した品質や衛生管理のレベルアップを図る取り組みを開始するため、「根室市水産 HACCP 推進協議会」を設立し、指針となる「根室市水産物品質及び衛生管理マニュアル」を策定しています。

(1) 背景と目的

食品製造をとりまく世界の動きは、消費者保護の立場を一層強めており、我が国でも HACCP システムや ISO9000シリーズの導入への取り組みが進んでいる現状から、根室市においても一部の企業が HACCP 認定を取得するなど、さらなる水産食品に対する安全性を確保し、消費者や量販店等に応えるべく、この取り組みを強化するものであります。

(2) 管理の範囲と対象魚種

管理の範囲

- ア. 漁業者 - 出港前～出港～漁獲～帰港～荷揚～選別～陳列
- イ. 市場 - 計量・セリ～搬出
- ウ. 輸送 - 市場搬出～加工場搬入
- エ. 加工場 - 原料受入れ～加工製造～保管～製品搬出
- 鮮魚店 - 市場搬出～鮮魚受入れ～処理(包装・裁割)～販売
- オ. 輸送 - 製品搬出・輸送

管理の対象者

利用者全般を考慮すると市民全部が対象者となりますが、ここでは生鮮魚介類に直接的及び間接的に携わる関係者として、漁業者・市場関係者・加工場関係者・買受人・販売人・流通業者のほか、市場を利用する機会のある人のすべてを対象とします。

管理する対象魚種

サケ・マス(春鮭鱒)	サンマ	秋サケ	タラ	カレイ
カニ	ウニ	貝類		

根室ブランドの創出

地域 HACCP 化への取り組みの最終目的は、「根室ブランドの確立」であります。そのためには、根室で生産される水産加工品が高い品質と安全性が保持されていることを証明し、積極的に情報提供することが前提条件となります。

このための地域の取り組みとして、まずは「品質及び衛生管理マニュアル」の着実な実践が不可欠であり、毎年その進捗状況を本協議会が検証し、常に地域に相応しい修正及び充実に努めるとともに、衛生監視員を委嘱し、自主的な検証と併せて第三者機関(専門家、消費者等を含む)による客観的な検証を実施しています。

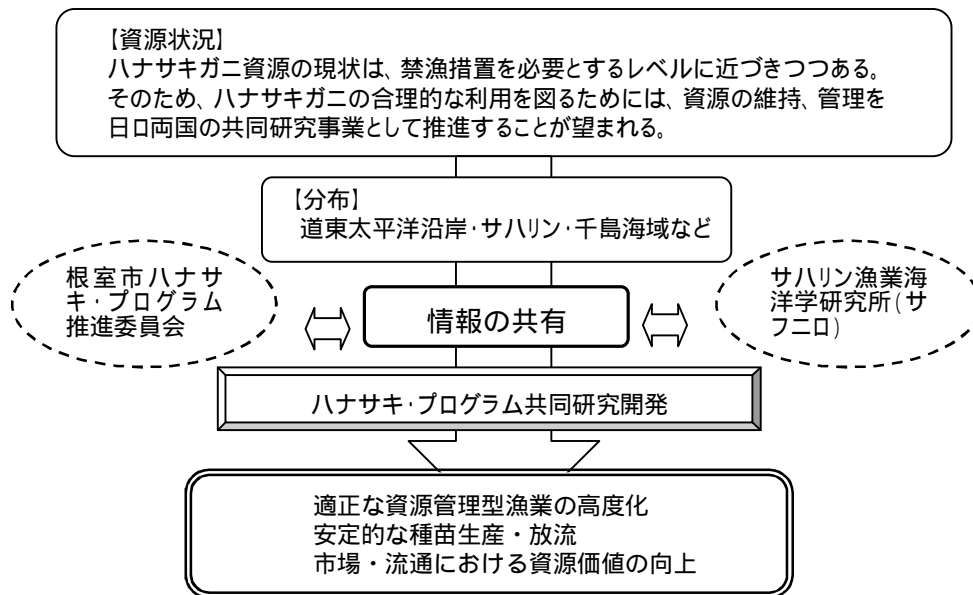
また、両者による検証と評価をもとに、「根室ブランド認証」のあり方やその条件の検討を進め、根室ブランド認証制度について、検討を進めています。

ハナサキ・プログラムは、根室市の特産種であるハナサキガニをめぐる様々な課題を解決するために、ロシア側との科学共同研究を軸にした研究開発、市民向けの啓発活動を実施し、「ハナサキガニ資源の有効利用」と「持続的な漁業の発展」を実現しようとする取り組みであります。

また、このプログラムの推進を通じて、民間レベルにおける科学技術交流や日ロ両国の辺境地域が相携えて繁栄する地域経済交流のモデルを開拓し、北方領土返還への環境醸成を図るものであります。

当推進委員会は、根室市がこのプログラムの実施により、ハナサキガニに関する研究開発、国際交流、中心的な産地市場の三点について、経済圏の中核となることを目的に、平成15年に設立しています。

(1) 背景と目的



(2) 主な研究課題

- 漁業と資源の実態の解明
- 資源構造と資源生態の解明
- 増養殖技術の実用化開発
- 味覚品質指標の開発と品質向上技術の開発
- 資源回復と資源管理方策の設計

(3) 取り組みの経過

本プログラムは、2004年3月2日ロシア連邦サハリン漁業・海洋学研究所（サフニロ）と当推進委員会で調印された「ハナサキガニ共同研究に関する合意書」に基づき、ハナサキガニの生態及び資源の維持増大、そして市場流通における資源価値の向上を目指すことを目的に、5カ年計画の共同研究が翌年からスタートしています。

平成20年度の「第7回ハナサキ・プログラム・ワークショップ」は根室市において開催され、根室側とサフニロ側から調査及び研究成果についての報告や話題提供とともに、5カ年の研究成果の総括について、専門的な立場からの議論が熱心に行われ、当初計画の取組を終了しました。

今後、その成果は重要な観光資源であります「ハナサキガニ」の資源維持・増大に向け活用し、さらには、当市の基幹産業である水産業や水産加工業の振興発展に役立ててまいります。

根室市は、水産物の安定供給と水産業の健全な発展を目指し、活力ある水産業や漁村地域の将来像を実現するため、地域の資源を生かしながら、漁業者、関係団体や行政の役割を踏まえた長期的構想として、根室地域(歯舞・落石)マリンビジョン計画を策定しています。

地域マリンビジョンとは、ずばり『水産業を通じた地域振興』であり、元気な地域づくりを地域住民と行政の協働で取り組んでいます。

(1) 計画策定の「背景」と「目的」

これまでの根室地域における漁村振興策は、地域人口の伸びや域内生産力の拡大といった、いわゆる拡大成長を前提として進められた結果、根室市を全国有数の水産都市に押し上げ、地域住民の生活水準を大きく高めたところでもあります。

しかし、現在ではいずれの漁村地域も既に少子・高齢、低成長の時代に入っており、地域の人々が豊かな生活を享受できる漁村地域の振興を実現していくためには、新しい発想の展開が必要となり、地域の資源を生かした根室地域マリンビジョンを策定し、これを具現化していくためにマリンビジョン協議会を組織したところでもあります。

(2) 根室地域の「漁村」と「地域協議会等」

区 分	域内の港湾・漁港	住民が参画する漁村振興組織
根室地区	根室港・花咲港	-
歯舞地区	歯舞漁港・温根元漁港・瑛瑠瑠漁港・友知漁港・沖根婦漁港・トーサムボロ漁港	歯舞地区マリンビジョン協議会
落石地区	落石漁港(浜松地区含む)・昆布盛漁港	落石地区マリンビジョン協議会
根室湾地区	幌茂尻漁港(温根沼地区含む)	根室湾景観・資源研究グループ

落石地区は平成 17 年 11 月に北海道マリンビジョンのモデル地区に指定されています。

歯舞地区は平成 19 年 11 月に北海道マリンビジョンのモデル地区に指定されています。

(3) 漁村地域の連携

根室地域マリンビジョン計画の策定を機に、それぞれの漁村のもつ個性や魅力の一つひとつ積み上げ、域内全体の発展を図るため、異なった歴史風土や文化をもつ漁村地区の相互の交流と連携を促進しています。

「人」「物」「情報」の交流を拡大し、それぞれの特徴を活かした役割を分担する中で、お互いの不足分を補いながら、漁村に活力をよみがえらせていく仕組みづくりを全市的に展開します。

(4) 漁村地域の連携

根室市は、次のステップで漁村地域と協働し、互助互恵の連帯を強化して創造的な漁村づくりを進めます。

< 第 1 段階 > ネットワーク

新しい知識や感動を共に発見し、体感する出会いとふれあいの創出

元気な漁村セミナーの開催、漁村ほっとらいんの開設等

< 第 2 段階 > チームワーク

社会的・地理的な垣根を越えた互助互恵の共生関係の強化

漁村の魅力発信・PR、イベント・バザール等の連携

< 第 3 段階 > グランドワーク

オール根室で持続可能な漁村地域の創造を展開

漁村・連携による新しい財産の創出(漁村景観の向上、認知度アップ等による集客など)

根室の新鮮で良質な水産物の消費拡大と、より一層のブランド化を図るとともに、漁業者が自ら消費者ニーズを把握し、今後の漁家経営の向上を強力に推進することを目的に、平成18年6月に根室市及び根室市内4漁業協同組合(根室・歯舞・落石・根室湾中部)からなる「根室おさかな普及委員会」を組織しています。

(1) 主な事業

「顔」の見える産地づくりの推進
産地ブランドの確立を見据えた消費・流通事業の推進
根室産水産物の普及宣伝活動



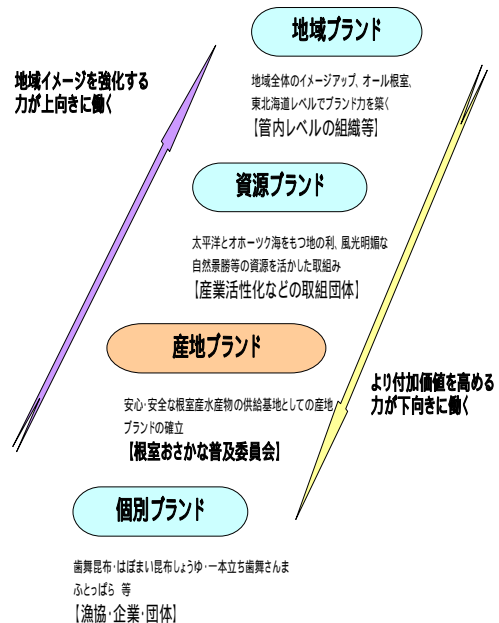
(2) 当委員会が考える「産地ブランド力」

当委員会は、魚を愛食する多くの方々にご意見を伺ったところ、消費者ニーズが最も高い水産物情報は、「産地名」であったことに強い関心をもっています。

近年、商品ロゴマークやタグ、ネーミング等の取組みによりブランド化を進める事例が多く見受けられますが、やはり消費者は不易流行というのか、今も昔も「産地名」にその商品の信頼を置くということでしょうか。

当委員会は、産地に存在する多様な「漁法」と「魚種」で商品層を厚くし、消費者層への購買機会の提供と、そのマインドシェアを獲得することがいわゆる「産地ブランド力」であると考えています。

そのためには、個別の企業や団体が単体で商品開発や販路開拓の取組みを行うのではなく、安全・安心な水産物を産地レベルで信頼を得て提供していくことが欠かせないと考えています。



(3) 個別計画等

個別計画	各年度の位置づけ				
	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度
「顔」の見える産地づくりの推進					
【産地ブランド戦略】					
こだわりの明確化	●	→			
物語りの組立て		●	→		
品質管理の基準づくり …… 他団体との協働		●	→		
産地ブランド確立のための消費・流通事業の推進					
【消費・流通戦略】					
PR宣伝隊の派遣	●	→			
販売ルート開拓			●	→	
飲食モニター店			●	→	
百貨店・量販店・通販 …… 他団体との協働			●	→	
直販機能の整備					●
【ファンづくり戦略】					
座談会の展開 …… 他団体との協働		●	→		
モニター試食会の展開 …… 他団体との協働	●	→			
根室産水産物の普及宣伝活動					
【認知度アップ戦略】					
一般紙・誌	●	→			
専門誌・業界紙(年2~5回)	●	→			
広報誌・ポスター	●	→			
テレビ・ラジオ			●	→	
インターネット					●
イベント等 …… 他団体との協働	●	→			



(注) 上記の「他団体との協働」と位置づけしている個別戦略については、当委員会においては様々な課題があり、必要な取組みであるものの、事業の主体として実施困難なものであります。よって、これらの分野を得意とする関係団体との連携・協力事業として行うものであります。

(4) 平成20年活動実績

産地ブランドの確立を見据えた消費・流通事業

札幌「オータムフェスト2008・大通ふるさと市場」PR 宣伝隊事業

- 【概要】 根室産水産物の対面販売、試食品の提供
- 【開催地】 札幌市（大通公園8丁目会場）
- 【日時】 平成20年 9月20日（土）～21日（日）
9月27日（土）～28日（日）
10月 4日（土）～ 5日（日）

北見菊祭りPR 宣伝隊派遣事業

- 【概要】 根室産水産物の対面販売、試食品の提供
- 【開催地】 北見市（北見駅南多目的広場）
- 【日時】 平成20年10月18日（土）～19日（日）
10月25日（土）～26日（日）
11月 1日（土）～ 2日（日）

早稲田「地球感謝祭」PR 宣伝隊派遣事業

- 【概要】 根室産さんま・昆布等の対面販売、試食品の提供
- 【開催地】 東京都（早稲田大学西早稲田キャンパス会場）
- 【日時】 平成20年 9月23日（火）

三笠市「道の駅」PR 宣伝隊派遣事業

- 【概要】 根室産水産物の対面販売、試食品の提供
- 【開催地】 三笠市
- 【日時】 平成20年9月27日（土）

おさかな料理実演講習事業 平成21年事業

- 【概要】 根室産水産物の対面販売、試食品の提供
- 【開催地】 札幌市（STV テレビ）
- 【日時】 平成21年1月13日（火）

根室水産物の普及宣伝事業

夏休み親子で体験！根室のおさかな料理教室

- 【概要】 根室で旬の魚である「とき鮭」・「ます」を使った料理教室
- 【開催地】 根室市（総合文化会館：実習室）
- 【日時】 平成20年7月28日（月）

浜の母ちゃん“直伝”根室のおさかな料理教室

- 【概要】 根室産水産物の普及促進のため、地場の魚を使った料理教室
- 【開催地】 根室市（総合文化会館：実習室）
- 【日時】 平成20年11月11日（火）
11月19日（水）～11月25日（火）（計4回）

事業名	開催地	平成20年												21年
		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月
1. PR 宣伝隊派遣事業														
オータムフェスト2008 大通ふるさと市場	札幌市													
北見菊まつり	北見市													
早稲田「地球感謝祭」	東京都													
三笠市「道の駅」	三笠市													
おさかな料理実演講習事業	札幌市													
2. 根室産水産物の普及宣伝事業														
夏休み親子で体験！ 根室のおさかな料理教室	根室市													
浜の母ちゃん“直伝” 根室のおさかな漬物教室	根室市													

年	月	主 要 事 項
昭和 20	8	・第2次世界大戦終了。
	9	・国後、択捉、歯舞、色丹の北方四島がソ連に占領される。
	10	・GHQ(連合軍総司令部)、瑤瑠水道にマッカーサーラインを設定。
21	4	・第2暁丸(16トン)多楽島付近でソ連にだ捕される。(だ捕第1号)
24	8	・水協法に基づき、根室・歯舞・落石・根室湾中部の各漁業協同組合設立。
27	4	・GHQ、マッカーサーライン撤廃、北洋漁業再開する。
	4	・サンフランシスコ平和条約発効、日本独立。
	5	・日米加漁業条約調印。(日本、西経175°以東の北太平洋のサケ・マス漁を自発的抑止)
28	4	・北洋サケ・マス流し網漁業許可。
29	5	・根室地方に暴風雨、漁船乗組員191人遭難死亡。(5/10の大災害)
30	4	・サケ・マス流し網操業区域を北緯48°まで拡張。
31	2	・ソ連、ブルガーニンライン設定、北洋サケ・マス漁業規制される。
	5	・日ソ漁業条約調印、サケ・マス漁業交渉始まる。
	12	・日ソ共同宣言発効、日ソ国交回復。
35	5	・48°以南サケ・マス漁業危機突破全国大会開く。
36	5	・日ソ漁業交渉、48°以南禁漁区について合意、サケ・マス漁獲量6万5,000トンで妥結。
	8	・貝殻島周辺でコンブ漁船など13隻だ捕される。
38	6	・日ソ民間貝殻島コンブ協定調印。
41	6	・イシコフ ソ連漁業大臣来日、根室を訪れる。
43	6	・ソ連「大陸棚に関する最高会議幹部会令」発布。
47	4	・根室市漁獲物陸揚条例制定。
48	6	・根室半島沖地震、花咲港津波に襲われる。(震度5、マグニチュード7.4)
	10	・田中首相訪ソ、日ソ共同声明発表、北方領土問題継続交渉となる。
50	1	・根室市国連海洋法対策協議会発足。
	4	・西カムチャッカ、タラバガニ全面禁漁となる。
52	3	・米ソ両国、200海里漁業専管水域実施。
	4	・200海里危機突破対策決起集会。
	5	・日本、12海里領海及び200海里漁業専管水域実施。
	5	・日ソ漁業暫定協定調印、ソ連200海里内での操業を取り決める。
	8	・日ソ漁業暫定協定調印、日本200海里内での操業を取り決める。
12	・この年、日ソコンブ交渉行われず、以後4年間貝殻島コンブ漁不可能となる。	
53	4	・日ソ漁業協力協定調印、日ソ漁業条約失効。
	12	・根室市水産加工技術研修センター完成。
54	10	・日ソ共同漁業始まる。
56	1	・ハナサキガニの3年間禁漁が決まる。
	8	・日ソ民間貝殻島コンブ採取協定が再び締結される。
	9	・貝殻島コンブ漁再開、330隻が出漁。
57	8	・「北方領土問題等の解決の促進のための特別措置に関する法律」が公布。
	12	・第三国連海洋法会議、最終議定書署名。
58	2	・日本、国連海洋法条約に調印、119番目の署名国となる。
	3	・根室市水産特産品加工場完成。
59	2	・「ソ連邦経済水域に関するソ連邦最高幹部会令」発布。
	9	・3年間の禁漁の後、ハナサキガニ漁が解禁。
	9	・新沿岸漁業構造改善事業の地域指定を受ける。
	12	・日ソ地先沖合漁業協定成立。

年	月	主 要 事 項	
昭和 60	1	・対ソ漁業危機突破緊急根室市民大会開く。	
	4	・根室湾海域総合開発事業始まる。	
	5	・北洋サケ・マス漁業危機突破緊急根室市民大会開く。	
	5	・日ソ漁業協力協定調印。実態交渉が難航しサケ・マス出漁大幅に遅れる	
61	4	・4ヶ月間にわたる交渉の結果「日ソ漁業委員会交渉」が決着。これにより漁獲割当量は150,000トン(75%減)、底刺網漁業の全面禁止、三角水域が閉鎖となる。	
	5	・「根室市北洋漁業対策連絡協議会」発足(市内33団体)。	
	6	・「太平洋小型サケ・マス漁業協会」において、以東船自主減船を決定。全体の45%に当たる123隻が減船、うち市内は41隻が減船。	
	6	・全面禁止となった中型底刺網漁船のうち5隻が試験操業のため、西カムチャッカの公海へ出漁。	
	7	・北洋漁業の危機に対処するため、水産経済部内に「北洋漁業対策室」を設置。	
	8	・「太平洋小型サケ・マス漁業協会」において、以西船391隻のうち108隻(28%)の自主減船を決定。うち市内は24隻が減船。	
	8	・「全国鮭鱒流網漁業組合連合会」において、中型船209隻のうち52隻(25%)の自主減船を決定。うち市内は14隻が減船。	
	9	・底刺網漁船の減船に伴う離職乗組員に対し、「国際協定の締結に伴う漁業離職者に関する臨時措置法」(略称：漁臨法)が適用。	
	10	・減船救済対策費要求額1,295億8,000万円に対し、約1/5の260億3,000万円に決定。うち根室市に係る要求分229億8,132万円に対し概算で40億円。	
	12	・「日ソ漁業委員会交渉」スピード決着。この結果、初めての有償枠10万トンが導入され、対日割当量は無償・有償あわせて前年の倍の30万トンとなる。入漁料は12億9,000万円。	
	62	6	・北洋漁業対策の一環として根室地区大規模漁場保全事業が実施される。総事業費10億円、うち今年度分2億円。
		10	・前年「日ソ漁業委員会交渉」でソ連より提案された、日ソはえなわ共同事業が、全ソ漁業船舶公団と旧ソはえなわ共同事業協会との間で、契約を締結。
12		・貝殻島ウニ漁が開始される。漁獲割当量260トン、入漁料5,700万円。	
63	6	・母船式サケ・マス漁業に対する、米国アラスカ原住民団体等が起こしたオットセイ混獲をめぐる訴訟の判決により、同漁業の米国200海里水域に対する出漁が不可能となる。	
	7	・日ソサケ・マス合弁事業の開始により、ソ連200海里水域内へサケ・マス漁業としては初めての出漁。漁獲割当量は2,000トン、入漁料3億7,920万円、中型・小型合わせて32隻が出漁(根室船籍は11隻)	
	10	・サンマ・秋サケ空前の大豊漁。これによりサンマの価格暴落。	
	11	・花咲市場裏の駐車場舗装工事の完了により、水産物中核流通加工施設整備事業による全事業が終了。	
平成 元	5	・数度にわたる交渉の結果、本年の日ソサケ・マス漁業交渉が妥結。漁獲割当量15,000トン、漁業協力費33億5,000万円。これとは逆に合弁事業に対する割当量は前年の150%増の5,000トンとなる。	
	5	・かねてから地元漁協より要望のあったウニ種苗生産センターの事業主体に根室市が決定し、平成2年度の完成に向け基本設計に入る。	
	9	・記録的な秋サケの大豊漁により魚価が大暴落。	
	9	・前年に続く豊漁のため、サンマの価格が暴落。	
	12	・日ソ地先沖合漁業交渉大筋合意。無償枠18万5,000トン、有償枠3万5,000トン、入漁料として8億8,500万円と冷凍サンマ1,000トンを現物で支払うことで決定する。また、北転船(北洋に転換した沖合底曳網漁船)の有償配分については再協議となる。	

年	月	主 要 事 項
平成 2	2	・北転船の再協議決裂、これにより今年度のソ連 200 海里への出漁は不可能となる。
	2	・北海道サケ・マス漁業関係自治体連絡協議会設立、北洋サケ・マス漁業の規制強化、沖獲り禁止問題に対し、道内関係自治体が連携を取りながら効果的な取り組みを目的とする。(会長・根室市長 大矢快治)
	3	・北洋サケ・マス漁業危機突破根室大会開催。主催・根室市北洋漁業対策連絡協議会、北海道サケ・マス漁業関係自治体連絡協議会。
	4	・サケ・マス交渉合意、漁獲割当量 1 万 1,000 トン、漁業協力費 31 億 5,000 万円、合弁事業に対する割当 6,000 トン。
	6	・サケ・マス合弁事業出漁、A 水域 1,000 トン、18 日後の 7 月 12 日 B 水域に出漁。(720 トン)。
	6	・根室市ウニ種苗生産センター着工、事業主体根室市。平成 3 年 4 月供用開始。
	12	・日ソ地先沖合漁業交渉妥結、三角水域での民間ベースでのカニ資源調査が認められる。
3	3	・日ソサケ・マス交渉妥結、漁獲割当量 1 万 7,000 トン(うち合弁事業に対する割当 8,000 トン)漁業協力費 28 億 3,500 万円。
	4	・根室市ウニ種苗生産センターオープン。
	4	・ソ連から戦後初の「活ガニ」直輸入始まる。ソ連船の根室市への入港 23 年ぶり。
	5	・太平洋小型サケ・マス漁で水揚げされたサケ、昭和 58 年以来の安値となり、キロ当たり 1,250 円～890 円となる。
	6	・近藤農林水産相、サケ・マス沖獲り禁止受け入れを正式表明。
	6	・根室湾沖造成漁場のホタテ初水揚げ、キロ当たり 435 円と予想を上回る高値をつける。
	8	・三角水域で日ソ共同カニ類資源調査開始。14 年ぶりに水揚げされたカニの総水揚げ 29 トン。
	8	・サンマの水揚げが始まり、特大サンマが 90%を占める。大量水揚げにより花咲市場、自主的に荷受制限を行う。
	9	・セベロクリリスク市と根室市の友好・経済発展を目的に、サハリン合弁会社「トロイカ」と北海道中型刺網はえなわ協会との間で北千島沖のマダラ漁獲で合意。(漁獲割当量 2,000 トン、協力金 7,200 万円、操業隻数 10 隻で 11 月から操業が開始された。)
	12	・ソ連漁業省廃止、ソ連邦消滅。
	12	・第 46 回国連総会において全世界の大規模公海流し網漁業を平成 4 年をもって停止することを決議、多くのいか流し網漁船等、平成 5 年以降操業不可能。
4	1	・ウニ種苗生産センター初の稚ウニ 500 万粒、出荷終了。
	3	・日ロサケ・マス交渉合意、漁獲割当量ロシア水域 1 万 5,500 トン、日本水域 2,819 トン、漁業協力費 4 億 4,400 万円。
	4	・ロシアより活ウニの輸入始まる。
	5	・貝殻島コンブ・ウニ交渉妥結、採取量コンブ 1 億 2200 万円、ウニ 4300 万円。
	6	・公海沖獲り禁止後初のサケ・マス合弁出漁、ロシア 200 海里内有償枠設定、花咲港には、中型 33 隻、小型 6 隻が水揚げ。
	9	・根室半島沿岸のハナサキガニ漁、安値終了。水揚げ量 304.4 トン、水揚げ金額 1 億 9,000 万円。
	10	・道東沖合マイカ好漁、本格的な水揚げは 20 年ぶり。
10	・日ロ・カニ共同資源調査、水揚げ金額 1 億 5,000 万円。	
12	・平成 4 年のロシアよりのカニ輸入実績、数量 1,090 トン、金額 11 億 900 万円。	
5	3	・日米ロ加 4 ヶ国による「北太平洋における遡河性魚類の系群の保存のための条約」正式発効。

年	月	主 要 事 項
平成 5	3	・IWC(国際捕鯨委員会)京都会議対策実行委員会の全国キャラバン隊来根。
	4	・根室海域ハナザキガニ資源維持増大対策連絡協議会、ハナサキガニの幼生「ゲローコテ」の中間育成に初の取り組み。
	7	・根室市「特定中小企業集積の活性化に関する臨時措置法」に基づく計画作成指定地域となる。
	7	・ハナサキガニ漁、雌ガニの試験操業が認められる。(漁獲対象、甲幅12cm以上)
	9	・根室初の北太平洋の海洋科学に関する国際会議「西部亜寒帯循環に関する根室ワークショップ93」が開催。
	10	・花咲港区に小樽検疫所花咲出張所が設置され、CIQ(税関・出入国管理・検疫)機能が強化される。
	12	・ガットウルグアイラウンド(多角的貿易交渉)が最終合意され、水産物については関税を段階的に引き下げることとなるものの、IQ(輸入数量割当)制度は堅持。
6	3	・「特定中小企業集積の活性化に関する臨時措置法」に基づく「根室地域集積活性化計画」、通産大臣の承認を得る。
	3	・ロシアのポキージン南クリル地区長、北方領土水域での民間協定による漁業協力を提案。
	5	・根室市水産研究所、東京理科大との共同研究施設として開所。
	8	・歯舞諸島沖で操業中の根室漁船、ロシア警備艇に銃撃を受け1名負傷。
	10	・4日、北海道東方沖地震(根室・震度5、マグニチュード8.1)発生、水産関係にも大きな被害。
	10	・第3回パイセス(北太平洋海洋科学機構)年次総会、根室市で開催。
	11	・秋サケ、キロ単価257円(前年476円)と大暴落。
11	・国際海洋法条約発効(日本は未批准)。	
7	7	・「海の記念日」を平成8年より国民の祝日「海の日」と制定。
	9	・羅臼のスケソウ漁減船。
	9	・海洋法制度研究会発足。国連海洋法の推進にともなう漁業管理制度の有り方について検討を始める。
	11	・根室市にて甲殻類に関する国際会議「根室海洋・水産ワークショップ95ロブスター」を開催。
	11	・秋サケ史上最高の水揚げ(1,632万尾)を記録。
	12	・ロシア政府が北方領土水域での操業問題に対して、貝殻島方式の導入を提案。
8	6	・三角水域での日ロ共同調査に関してロシアが「ロシア大陸棚法」を根拠に打ち切りを通告。
	6	・根室市にて気候変動が海洋生態系に与える影響の研究会議「パイセスCCCC根室国際会議」を開催。
	8	・根室市の漁船2隻が、納沙布岬沖合でロシア警備艇より銃撃を受け、2名が負傷。
	9	・根室水産研究所がオープン。
	10	・水産庁がTAC(漁獲可能量)を明示する。
	10	・根室市のサンマ漁船が国後島沖で捕される。
	11	・秋サケの水揚げが、史上最高を記録した前年終期を更新する。(1,663万尾)
9	1	・TAC(漁獲可能量)制度開始。
	6	・根室市の漁船1隻が、納沙布岬沖合でロシア警備艇より銃撃を受け、2名が負傷。
	6	・ロシア国旗を揚げながら日本人が操業の主体を握る「偽装船」を防止する「科学調査船が生産したサケ・マス製品をロシアから日本へ輸出する問題についての相互協力に関する基本協定」に調印。

年	月	主 要 事 項
平成 9	7	・根室管内の水産関係機関及び団体が連携し、栽培漁業の総合的な推進を図り漁家経営の安定向上を期することを目的とした、根室管内栽培漁業推進協議会を設立。
	9	・根室市にて北太平洋におけるカニ・エビ類の資源量変化と環境変動の影響についての国際会議「バイセス ワーキンググループ 12 カニ類とエビ類に関する根室国際会議」を開催。
	10	・水産庁がTAC(漁獲可能量)制度の対象にスルメイカを翌年1月より加える決定をする。
	12	・北方四島周辺水域における日本漁船の操業の枠組みに関する日口政府間交渉が妥結。
10	1	・道が北方四島水域における安全操業の推進を図るため、「北方四島水域操業推進本部」を設置。
	2	・北方四島周辺水域における日本漁船の操業の枠組みに関する日口政府間交渉がモスクワにて調印。
	5	・北方四島周辺水域における日本漁船の具体的操業内容に係る了解覚書がモスクワにて取り交わされ、操業に必要な日口間の手続きが終了。
	6	・根室管内別海町の加工業者が生産したイクラが原因となり、腸管出血性大腸菌O-157による食中毒事件が発生。
	7	・「食品の製造過程の管理の高度化に関する臨時措置法」(HACCP手法支援法)が施行される。
	7	・根室市のサケ・マス漁船が水晶島沖においてだ捕される。
	9	・国内水産研究者による平成10年度日本水産増殖学会道東地域研究集会(根室水産シンポジウム)が根室市にて開催される。
	10	・北方四島周辺水域における日本漁船の操業がスタートする。
	11	・根室市にて物理的海洋学についての国際会議「98 バイセス オホーツク海根室国際会議」が開催される。
	11	4
6		・根室市のサンマ漁船1隻が水晶島沖においてだ捕される。
7		・貝殻島サオマエコンブの値決め交渉において、史上最高の10キロ当たり21,800円を記録。
8		・根室市・釧路市のサンマ漁船3隻が歯舞諸島沖においてだ捕される。
12		・根室市花咲港港湾区域内においてロシア貨物船が座礁する。
12	1	・根室市にて気候変化と北太平洋の環境収容力やプランクトンとの相互作用が海洋生態系にもたらす影響を明らかにするための国際会議「バイセス低次生産モデリング根室ワークショップ」が開催される。
	3	・根室市水産研究所との共用研究施設である東京理科大学総合研究所海洋生物研究施設が閉鎖された。
	6	・貝殻島周辺のコンブ漁で日本側が毎年行っている雑海藻駆除に対し、国・道・根室市が補助金を充てる方針を固めた。
	7	・根室の水産物の品質・衛生管理を向上することを目的に、水産関係団体運輸業界・商工会議所・市など12団体による、根室市水産HACCP推進協議会が設立された。
	10	・根室市などコンブ生産額の多い道内12市町が、国・道に対し、コンブ輸入割当制度(IQ)の堅持を求める陳情を行った。
	11	・根室市水産研究所が、根室の珍味として有名なオオノガイの稚貝の大量生産に成功し、66万個を春国岱水域に放流した。
	12	・日口地先沖合漁業交渉において、ロシア200海里経済水域におけるマダラの漁獲割当量が約8割削減されることが決定し、これにより根室の底はえなわ漁業は壊滅的な打撃を受けることとなった。

年	月	主 要 事 項
平成 13	1	・全鮭連(全国鮭鱒流網漁業協同組合連合会)が操業船53隻のうち19隻の減船を決定。
	1	・根室市水産研究所が世界ではじめてタラバガニの完全養殖に成功。
	2	・漁獲割当量削減による根室経済の危機的状況を打破するため、市民1,700人が結集し、「日ロ地先沖合マダラ漁業危機突破根室市民総決起大会」(2/25)が開催された。
	3	・北海道 中小企業庁は、マダラ関連産業に対する各種緊急金融支援対策を実施した。
	6	・根室市をはじめ道内34自治体が「コンブ輸入割当制度堅持北海道自治体協議会」(会長・根室市長)を設立した。
	6	・ロシアが、北方四島周辺における韓国サンマ漁船操業を許可していた問題が表面化し、市・市議会・水産関係団体・商工会議所が、国及び道に対し、韓国船の操業中止を要請した。
	12	・歯舞諸島付近で根室市のマダラ延縄漁船3隻が拿捕された。
14	1	・北方四島周辺水域におけるサンマ漁問題について、第三国等の漁船の操業を禁止することが確認された。
	1	・北太平洋における気候変動が海洋生態系にもたらす影響を明らかにするための国際会議「パイセスモデル・レックスタスクチーム合同根室ワークショップ」が根室市にて開催された。
	4	・ロシア漁船による水産物密漁問題に対応し、水産庁は、「外国人漁業の規制に関する法律」の厳格適用を始め、ロシア政府発行の「貨物税関申告書」をもつロシア船のみに日本への寄港を認めるなど、規制強化に乗り出した。
	10	・道東沖サンマ漁の小型漁船の中に、違法改造により積載容量を増やしたものが確認されたことを受けて、道東の20トン未満サンマ漁船130隻は、10月26日より自主休漁した。
	12	・花咲港への年間のサンマ水揚げが、47,547トン、76億6,400万円に及び、5年連続で量・額とも日本一となった。
	15	1
2		・サニフロと根室市によるハナサキガニの共同研究や、それによる根室市の国際交流拠点機能の開発などについて議論する国際会議「ハナサキ・プログラム・ワークショップ」が根室市にて開催され、今後の研究方針について取りまとめられた。
4		・納沙布岬灯台下に、ロシア貨物船「RS - 1978」(89トン)が座礁する。
5		・市内15団体等から構成される「根室市食品廃棄物等リサイクル推進協議会」(会長・根室市水産経済部長)が設立される。
6		・ロシア200海里内サケ・マス流網漁で民間交渉が難航し、ロシア側の都合により、2度に渡り中断するなど、前年より大幅に減少の中での出漁となる。このことから、14団体で構成される「ロシア200海里内サケ・マス流網漁業根室市対策本部」を設置し、8月に国や道に対し、要請活動を行う。
6		・貝殻島周辺海域での貝殻島コンブ漁はロシア側の国内調整の遅れにより、出漁が3週間余り遅れる。また、貝殻島昆布採取協定では9年連続で据え置かれていた採取料が400万円引き下げられ1億2,000万円となる。また、新たに採取量を5,000トンに設定される。
12		・花咲港へのサンマ水揚げが6年連続で水揚量・金額とも日本一となる。秋サケにおいては史上最高の水揚げを記録した。
12		・魚種全般にわたり魚価が低迷する。特にホタテ、秋サケ、サンマにおいては魚価安の影響から、水揚金額が前年を大幅に下回る。

年	月	主 要 事 項	
平成 16	2	・ハナサキガニの資源増大を目指す「第1回ハナサキ・プログラム・ワークショップ」が2月28日から4日間にわたり開催される。最終日には、根室市ハナサキ・プログラム推進委員会 会長 根室市長 藤原 弘とサフニロ第一副所長 S.N.タラシユクとの間で、今後の研究内容の確認や合意書の調印が交わされた。	
	3	・根室市水産研究所が世界ではじめてハナサキガニの完全養殖に成功。	
	4	・循環システム事業協同組合(代表理事・堀越公輔)が運営する水産系廃棄物処理施設「根室再生利用事業所」が花咲港に完成、稼動を開始する。	
	5	・市内4漁業協同組合青年部で構成される「根室市漁協青年部連絡協議会」(会長 歯舞漁業協同組合青年部長・腰 裕二)が設立される。	
	6	・ロシア 200 海里内サケ・マス流網漁の民間交渉において、水域別・漁種別漁獲枠配分が導入される。	
	7	・根室市の小型サケ・マス漁船1隻が拿捕される。	
	9	・小泉首相が海上から北方領土を視察。現職首相による北方領土視察は、3回目だが、海上からの視察は今回が初めてとなった。	
	12	・花咲港への年間のサンマ水揚げが、7年連続で水揚量・金額とも日本一となる。	
	17	2	・根室市のマダラ延縄漁船1隻が拿捕される。
		3	・「第2回ハナサキ・プログラム・ワークショップ」が3月2日から4日間にわたり開催され、合意書に基づく実行計画の1年目として、サフニロ側と日本側双方より資源実態についての報告や話題提供がなされた。 ・北海道開発局が募集する「モデル地域マリンビジョン」に、第3種・第4種漁港を擁する落石地区・歯舞地区が応募、地域マリンビジョン計画を策定した。
		9	・サンマ漁船「第3新生丸」が転覆し、乗組員7人が死亡する。
		11	・落石地区のマリンビジョン計画が、北海道開発局長よりモデル地域の指定を受ける。
12		・花咲港への年間のサンマ水揚げが、8年連続で水揚量・金額とも日本一となったが、魚価安に見舞われ水揚金額が前年を大幅に下回る。	
18	1	・第3回ハナサキ・プログラム・ワークショップを開催	
	3	・第1回 HACCP フェアを開催	
	4	・「歯舞地区マリンビジョン協議会」が設立し、地域振興策の策定を開始 (市・漁協・地域住民・観光事業者で組織し、開発局モデル指定を目指す)	
	6	・通算40回目となる「貝殻島昆布採取漁業」が例年より3週間遅れて操業開始 (ロシア側の資源管理論の台頭により、交渉開始が大幅に遅れ、根室市は漁協とともに事態打開に向け国などに要請活動を展開)	
	6	・「歯舞昆布」等の根室産水産物を地域団体商標に出願	
	6	・落石漁港内(ウニ養殖場)においてナマコ育成試験の開始	
	6	・「根室おさかな普及委員会」が設立 (市、四漁協で組織し、産地ブランドの確立を目指して活動を開始)	
	7	・根室産業クラスター創造研究会が根室湾地区(幌茂尻・温根沼・東梅)の漁村地域の振興を目指した新事業を開始	
	8	・根室市のかにかご漁船がロシア国境警備隊により銃撃され、乗組員1名が死亡 (8月16日早朝の「第31吉進丸」の銃撃事件を受け、根室市は「第31吉進丸銃撃・拿捕事件対策本部」を設置)	
	8	・花咲水産物卸売市場(四号上屋)に滅菌冷却水を製造する海水処理プラントを設置(根室・落石漁協の共同事業)	
	8	・初めて千葉県内で外来漁船(大型サンマ漁船)の誘致活動を実施	
	10	・低気圧災害により12億4千万円を超える漁業被害が発生	
	11	・落石漁港で船揚場の造成(国直轄事業)、上架施設の附設(落石漁協)が完成	
	12	・道漁連と根室管内八漁協が花咲港に国の燃油高騰緊急対策事業の助成を受け、大型軽油タンク2基を設置	
12	・9年連続して花咲港へのサンマ水揚げ日本一を記録(数量・金額)		

年	月	主 要 事 項
平成 19	1	・第5回ハナサキ・プログラム・ワークショップを開催
	2	・水産加工セミナー開催
	3	・HACCP フェアを開催 ・日本 200 カイ内サケマス漁業交渉妥結
	4	・北洋サケマス漁業交渉・貝殻島昆布漁業交渉妥結
	5	・歯舞地区マリンビジョン協議会「千島桜植樹祭」 ・根室漁協所属サケマス漁船ロシア海域にて転覆、乗組員全員救助される
	6	・通算 41 回目となる「貝殻島昆布採取漁業」が解禁日に一斉出漁 ・落石地区マリンビジョン協議会「マリンポートフェスティバル第 1 回おちいし味まつり」開催 集客 2,500 人
	7	・根室市漁協青年部連絡協議会「ねむろ異業種交流座談会」を開催 ・歯舞地区マリンビジョン協議会水産教室「地引き網体験」実施 ・水産業講演会「今年のサンマ漁況・海況の見通し」開催
	9	・根室おさかな普及委員会「さっぽろ大通りふるさと市場」出店 ・第 1 回「歯舞昆布祭り」開催 集客 2,500 人 ・根室おさかな普及委員会「早稲田地球感謝祭」出店 ・根室フットパス大会開催
	10	・根室漁協所属サンマ棒受網漁船落石岬沖で火災・沈没する乗組員全員救助 ・第 6 回全国漁港漁場整備技術研究発表会(岡山県)「マリンビジョンづくり通じた漁業地域の振興」出席 ・平成 20 年北方四島周辺安全操業交渉(モスクワ)妥結 ・根室市漁協青年部連絡協議会「消費・流通PR促進事業」開催 ・根室おさかな普及委員会「品川夢さん橋」出店
	11	・歯舞漁協所属サンマ棒受網漁船転覆・沈没する乗組員全員救助 ・歯舞地区マリンビジョン協議会「浜の母さん出前料理教室」開催
	12	・落石地区マリンビジョン協議会 チャラ別海岸清掃活動 ・根室おさかな普及委員会「浜の母ちゃん直伝つけ物教室試食会」開催 ・歯舞地区マリンビジョン協議会 第 3 次モデル地域指定となる ・10年連続サンマ水揚げ日本一を記録(数量・金額)花咲港

【平成20年度実績】

年	月	主 要 事 項
平成 20	1	・第6回ハナサキ・プログラム・ワークショップを開催
	2	・根室市漁船員永年勤続表彰式を開催(受賞者3名)
	3	・HACCP フェアを開催
	6	・新ご当地グルメ「根室さんまロール寿司」の販売開始(市内7店舗で一斉販売) ・北方領土・貝殻島周辺のコンブ漁が解禁 (例年より資源量が少なく、生育が遅れていることが分かり、一斉出漁を15日遅らせた)
	7	・夏休み親子で体験!根室のおさかな料理教室を実施 ・「今年のサンマ漁況・海況の見通し」を演題に、水産業講演会を実施 ・「落石燃油タンク施設」の完成 (花咲油槽所と連携し、落石地区における燃油供給を担う施設として、国の燃油高騰緊急対策の支援を得て、落石漁業協同組合と北海道漁業協同組合連合会が共同で建設) ・燃油高騰による漁業経営危機突破のための「根室管内漁業者緊急集会」が実施され、水産業界の窮状を政府・国会、社会一般にアピール
	8	・花咲製氷冷凍工場の建設工事着手【平成21年4月稼働予定】 ・サンマ漁(棒受網漁)が解禁(漁獲可能量TACが35万トンに拡大)
	9	・「さっぽろオータムフェスト2008・札幌大通ふるさと市場」、早稲田「地球感謝祭」、三笠市「道の駅」の催事に根室おさかな普及委員会が参加し根室水産物販売、PR活動を実施
	10	・落石漁業協同組合が、漁業を中心とした地域づくりの核となる活動拠点施設である「エトピリ館」の施設整備に着手 ・根室市漁協青年部連絡協議会が、根室水産物の消費拡大と漁業生産者が自ら対面販売を経験する研修の一環として、「JA めむろファーマーズマーケット」へ出店し、販売、PR活動を実施 ・「第56回北見菊祭り」に根室おさかな普及委員会が参加し根室水産物販売、PR活動を実施 ・根室管内の秋サケ定置網漁が不漁で1995年以降最少で推移
	11	・歯舞漁業協同組合が、道内の組合として初めて観光事業に着手し、「北方領土を間近に望むクルージング」をフレーズに指導船を利用した遊覧観光を実施 ・「根室さんまロール寿司」の普及と根室産昆布の消費拡大を目的に、11月15日の「こんぶの日」に併せ、「根室さんまロール寿司を食べて根室昆布セットをもらおうキャンペーン」を市内6店舗において実施
	12	・根室おさかな普及委員会主催で「浜の母ちゃん“直伝”根室おさかな漬物教室試食会」を開催 ・11年連続して花咲港へのサンマ水揚げ日本一達成(数量・金額)

〔官公庁〕

団体名	住所	電話	FAX
根室海上保安部	琴平町 1-38	24-3118	24-4184
根室税関支署	花咲港 440	25-8257	25-8258
根室支庁産業振興部水産課	常盤町 3-28	23-6131	23-6202
根室地区水産技術普及指導所	常盤町 3-28	23-6131	23-6207
根室市水産経済部水産港湾課	常盤町 2-27	23-6111	24-8692
根室市水産加工振興センター	花咲港 374	25-3313	25-3313
根室市ウニ種苗生産センター	温根元 24-6	28-2886	28-2823
根室市水産研究所	温根元 168	28-2152	28-2282

〔漁業協同組合及び系統団体〕

団体名	住所	電話	FAX
根室漁業協同組合	海岸町 1-17	23-6161	23-6160
歯舞漁業協同組合	歯舞 4-120	28-2121	28-2320
落石漁業協同組合	落石西 395	27-2121	27-2537
根室湾中部漁業協同組合	温根沼 344-3	25-3131	25-3920
北海道漁業協同組合連合会根室支店	海岸町 1-2	24-7511	24-3821
北海道信用漁業協同組合連合会根室支店	海岸町 1-2	22-3851	24-9054
北海道漁業共済組合根室支所	海岸町 1-2	23-5753	24-2103
根釧漁船保険組合	海岸町 1-2	24-2215	23-2637

〔水産加工業協同組合〕(水協法または中企法に基づく団体)

団体名	住所	電話	FAX
根室水産加工業協同組合	月岡町 2-71	23-5623	23-2785
根室団地冷蔵協同組合	花咲港 374	25-3334	25-3551

【市場】

団体名	住所	電話	FAX
根室漁業協同組合花咲市場	花咲港 440	25-3100	25-8412
同 根室市場	本町 5-37	24-5811	23-3353
歯舞漁業協同組合歯舞市場	歯舞 4-120	28-3161	28-2519
同 花咲市場	花咲港埠頭	25-8181	25-8180
落石漁業協同組合落石市場	落石西 395	27-2211	27-2606
同 花咲市場	花咲港埋立地	25-8563	25-8563

【その他関係団体及び施設等】

団体名	住所	電話	FAX
根室水産協会	花咲港 446	25-3031	25-3377
根室おさかな普及委員会	常盤町 2-27	23-6111	24-8692
歯舞地区マリンビジョン協議会	常盤町 2-27	23-6111	24-8692
落石地区マリンビジョン協議会	常盤町 2-27	23-6111	24-8692
根室湾景観・資源研究グループ	常盤町 2-27	23-6111	24-8692
根室市漁協青年部連絡協議会	常盤町 2-27	23-6111	24-8692
根室市水産 HACCP 推進協議会	花咲港 374	25-3313	25-3313
根室市ハナサキ・プログラム推進委員会	温根元 168	28-2152	28-2282
根室市外来漁船誘致促進会	常盤町 2-27	23-6111	24-8692
全日本海員組合道東支部根室事務所	松ヶ枝町 2-30	24-8811	24-8813
北海道底はえなわ漁業連絡協議会	海岸町 1-17	23-6161	23-6160
北海道中型底刺網はえなわ協会	同上	同上	同上
根室管内小型はえなわ協議会	同上	同上	同上
根室水産ビル	海岸町 1-2	24-1131	
根室漁業無線局	花咲港 209	25-8221	
根室第一漁業生産組合	昭和町 1-86	23-6335	
根室漁協花咲港漁船員福祉センター	花咲港 366	25-8007	
歯舞漁協漁船員厚生センター	歯舞 4-121	28-2070	